
Rolleiflex 6008 AF

取扱説明書 User`s Manual





各部の名称	6	アクショングリップの取付け	26
ローライフレックス 6008AF	10	アクショングリップ位置の調整	27
撮影の前に		ストラップの調整	27
バッテリーの充電	12	フィルムインサートの装填	28
ニッカドバッテリーの装着	12	フィルムインサートの交換	29
レンズの着脱	12	フィルムの取出し	30
フィルムの装填	13	フィルム感度の設定	30
マガジンの取付け方	14	マガジンの交換	31
フィルムのセット	14	マガジンの識別	32
スイッチの on / off	15	レンズの交換	33
ファインダーフードの開閉	16	ファインダーフードの交換	33
フォーカシング	16	マグニファイヤーの交換	34
オートフォーカス	16	フォーカシングスクリーン の交換	34
マニュアルフォーカス	17	スイッチの on / off	35
露出モードの選択	17	シングルショット	35
測光モードの選択	18	連続ショット	35
フィルムの取出し	18	オートブラケット ティング機能	36
ファインダーディスプレイ表示	19	サイレント動作	36
カメラの取扱と使用方法		連続撮影の枚数制限	36
レンズの装着	21	フォーカシング	37
ニッカドバッテリーの装着	21	AF シングル測距	39
ネックストラップの取付け方	21	AF 連続測距	39
ファインダーフードの開閉	21		
バッテリー充電	22		
カーバッテリーからの充電	23		
その他の電源	23		
バッテリー状況	24		
ニッカドバッテリーの交換	25		
ヒューズの交換	26		

CONTENTS

マニュアルフォーカス	40	その他のファインダーディスプレイ	58
測光モードの選択	41	エラー・マネージメント	59
スポット測光	42	種々のデフォルトセッティング	60
マルチスポット測光	42	3フォーカスエリア作動(デフォルト)	61
露出補正の設定	44	スポットAF	61
露出モードと露出測定	44	前シンクロの選択(デフォルト)	62
絞り優先AE	44	後シンクロの選択	62
シャッタースピード優先AE	45	第1ブラケットティングモードの選択	63
プログラムAE	45	第2ブラケットティングモードの選択	63
プログラムカーブ	46	標準フィルムマガジン用の フレームカウンターの設定	64
マニュアルモード	47	リセット	64
バルブ/タイムモード	47	カスタム機能	65
被写界深度の確認	48	フラッシュ撮影	66
AEロック	48	前シンクロ/後シンクロの設定と シンクロスピード	67
迷走光補正	49	SCAアダプターを使わない マニュアルフラッシュコントロール	67
シャッターレリーズ	50	Rollei SCA3562(またはSCA356) 専用フラッシュアダプターを使う フラッシュ撮影	68
RC-120 リモートレリーズを使う場合	50	低照度でSCAアダプターを使用しての オートフラッシュ	70
セルフタイマー	51	プログラムAEでのフラッシュ撮影	70
ミラーアップ	52	絞り優先AEでのフラッシュ撮影	70
オートブラケットティング機能	53		
多重露光	55		
フレームカウンター	57		

シャッター優先でのフラッシュ撮影	71	カメラのお手入れ	84
SCAアダプターでの オートフィルフラッシュ	71	便利なアクセサリ	85
補正フィルフラッシュ	72	交換レンズ	85
追加フィルフラッシュ	72	テレコンバータ	86
フラッシュ露光補正機能付き フラッシュでのオートフィルフラッシュ (SCA3562 アダプターのみ)	73	交換式フィルムマガジン	86
マニュアルフラッシュ制御	74	交換式ファインダー	86
SCAアダプターを使用しての フラッシュブラケットティング	75	フォーカシングスクリーン	88
プリフラッシュ (マニュアル絞りコントロール)	76	蛇腹レンズフード/タイプVI	89
低温化での撮影	77	バッテリー延長ケーブル	89
極端なライティング条件での撮影	77	外部電源ユニット	90
スポット測光	78	フラッシュアダプター SCA3562	91
マルチスポット測光	78	トラブルシューティング	92
露出補正	79	適合性	96
オートブラケットティング	79	6008AF 仕様	98
標準反射板を使つての測光	80		
クローズアップ測光	80		
被写体のコントラスト	80		
接写用アクセサリ	81		
クイックリリース	83		

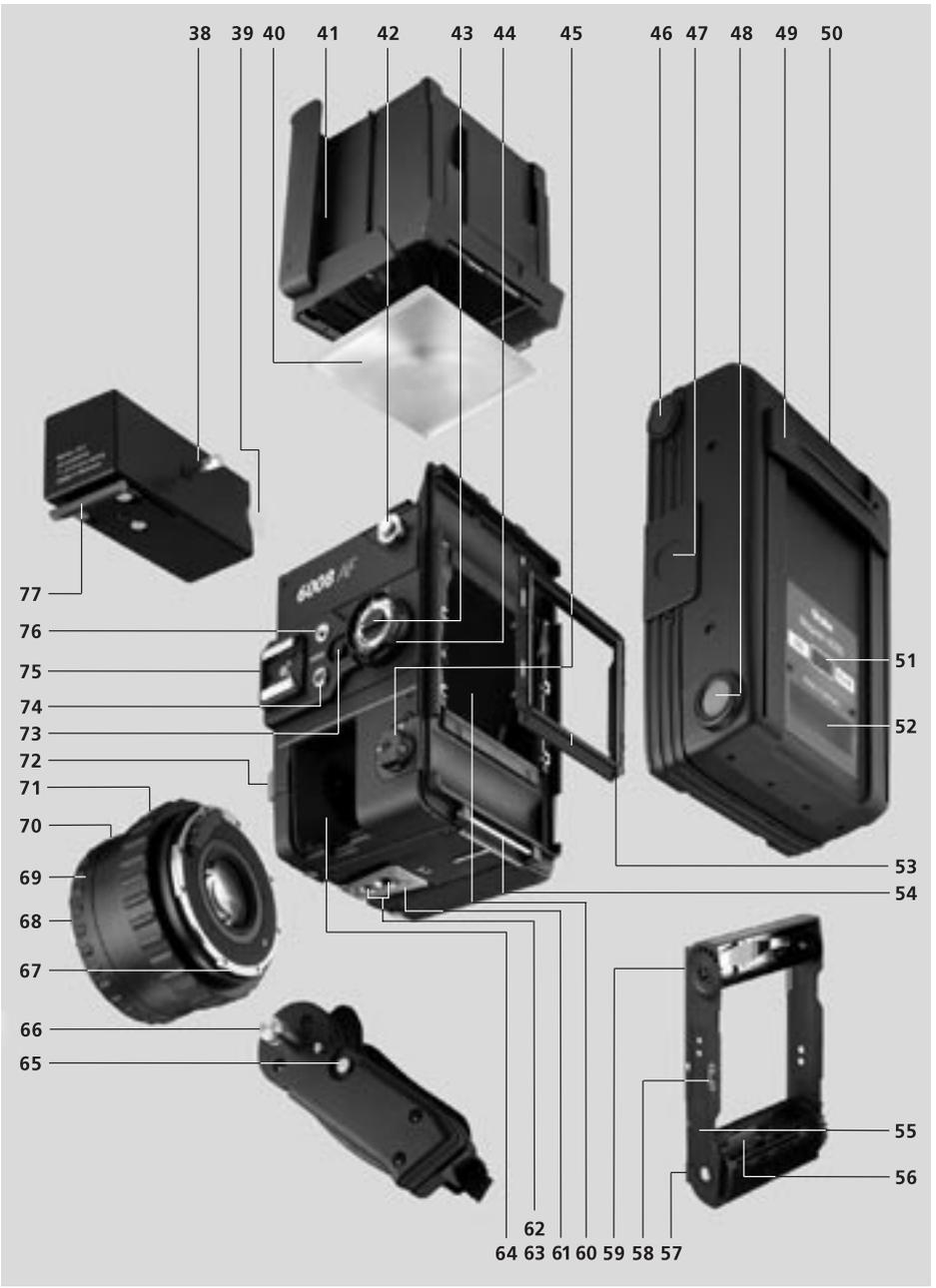
COMPONENTS AND CONTROLS



各部の名称

1. メインスイッチ
2. ファインダーフード取外し用レバー (右側)
3. ストラップ取付け金具 (右側)
4. フォーカシングスクリーン枠・把手 (右側)
5. マグニファイヤー・ホルダー
6. マグニファイヤー
7. 折り畳み式ファインダーフード
8. ニッカドバッテリー
9. ヒューズ
10. ファインダーフード取外し用レバー (左側)
11. フォーカシングスクリーン枠・把手 (左側)
12. ファインダーディスプレイ
13. レンズマウント
14. 距離目盛
15. 絞り目盛
16. フィルターバヨネット
17. 被写界深度スケール
18. バヨネットマウント
19. シャッターロック
20. シャッターレリーズボタン
21. アクショングリップ
22. レザーストラップ
23. シャッタースピード設定ダイヤル
24. シャッターレリーズボタン
25. アクショングリップ取付口
26. フォーカスモードダイヤル
27. 測光/メモリースイッチ (AE ロック)
28. 空スプール
29. スタートマーク用指標
30. コネクタ
31. カスタム機能スイッチ
32. 絞りボタン
33. フィルムインサート用スペース
34. マガジンバック開閉ボタン (右側)
35. マガジンバック部
36. フィルムマガジン取外しボタン (右側)
37. フィルム感度設定ダイヤル

COMPONENTS AND CONTROLS



COMPONENTS AND CONTROLS

各部の名称

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 38.スペアヒューズ | 58.フィルム装填表示 |
| 39.スペアフューズ保護/パネル | 59.フィルム送りギア |
| 40.フォーカシングスクリーン (交換式) | 60.遮光シャッター |
| 41.折畳み式ファインダーフード (交換式) | 61.三脚取付け座 |
| 42.ストラップ取付け金具 (左側) | 62.三脚取付け用ネジ穴3/8インチ |
| 43.露出補正および日中シンクロダイヤル | 63.三脚取付け用ネジ穴1/4インチ |
| 44.測光モード切替/メニューダイヤル | 64.ニッカドバッテリー収納部 |
| 45.多重露光ノブ | 65.グリップ角度調整用ボタン |
| 46.フィルムマガジン取外しボタン (左側) | 66.アクショングリップの固定シャフト |
| 47.ステッカー用スペース | 67.レンズ側バヨネットマウント |
| 48.マガジンバック開閉ボタン(左側) | 68.交換レンズ |
| 49.ラミネートスライド操作レバー | 69.絞りリング |
| 50.フィルムマガジン (交換式) | 70.絞りリング・ロックボタン |
| 51.フレームカウンター窓 | 71.フォーカシングリング |
| 52.メモホルダー窓 | 72.レンズ取外しボタン |
| 53.フィルムステージ (取外し可能) | 73.ミラーアップボタン |
| 54.フィルムマガジン取付けヒンジ | 74.PCソケット (Xシンクロソケット) |
| 55.フィルムスプール固定用スプリング | 75.ホットシュー (専用フラッシュ接点付) |
| 56.フィルムメモホルダー | 76.ケーブルリリース用ソケット |
| 57.フィルムインサート | 77.ニッカドバッテリー・グリップバー |

ローライフレックス6008AF

この度はローライフレックス 6008AF をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このカメラを長い間ご愛用いただくために、本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。

お急ぎの方のために 簡潔な取扱い説明があります。

カメラの各モジュールの組み立てから撮影済みフィルムの取り出しまでの重要な操作方法を順を追って説明し、カメラの各部分の重要なポイントを図で示した詳細な解説があります。
(P20～)

さらに、数々の実用的な撮影技術、カメラの取扱いに関する情報、主なアクセサリーの紹介がされています。

また、交換レンズ群の主要なデータを記した表が添付されています。

もし何か操作上でエラーが発生した場合のためにトラブルシューティングガイドが問題点を特定し、それを解決するためにお役に立ちます。本文中、および図中の各パーツの番号はすべて共通で同じものを指し、各部の名称の写真で見いただくことができます。

ご注意

ローライフレックス 6008 AF は他の精密機械と同じく注意深く取扱ってください。

交換式マガジンや交換レンズを取り外し、取り付ける時は最大限の注意を払って行なうようにしてください。

※カメラにレンズが装着されていない時は、内部のミラー、特殊反射防止面に絶対に手を触れないようにしてください。この場合は必ず保護キャップをボディに装着してください。

※カメラにマガジンが装着されていない時は、露出している遮光シャッター [60] が圧迫されないようにしてください。この場合は必ず後保護カバーをボディに装着してください。

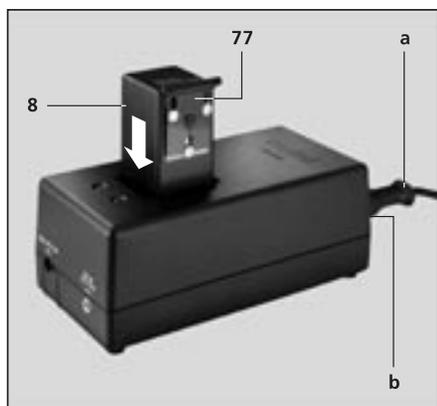
※カメラから取り外した交換式マガジンは必ず引き板を閉じ、さらに保護カバーを装着してください。

※ここで述べられていることは、このカメラおよびその操作方法について知っておかなければならない最も重要な事柄です。さらに詳細な情報をお知りになりたい方は 20 ページからお読みください。

6000 シリーズ旧モデルをお使いの方へ

ローライフレックス 6000 シリーズの旧モデルをお使いの方は、"旧型機種との互換性" の項をお読みください。

BRIEF INSTRUCTIONS



バッテリーの充電

充電器の電源コード (a) を充電器のソケット (b) に差し込み、電源プラグを AC コンセントにつなぎます。充電器の緑のランプが点灯するまで数秒かかります。

バッテリーを写真のように充電器に挿入します。充電時間は最低 10 分以上、通常は 1 時間で充電が完了します。この充電器は家庭用の AC100V から 240V までの電圧でそのままご使用いただけます。

すべての充電式ニッカドバッテリーは、使用しなくても徐々に自然放電します。カメラをいつでも使用できる状態を保つために、使用しない時でも 2～3 ヶ月に一度はバッテリーの充電を行うようにしてください。

ご注意

6008AF 用ニッカドバッテリーは、6008 インテグラルおよび 6001 プロフェッショナル以外のモデルにはそのまま使用することはできません。



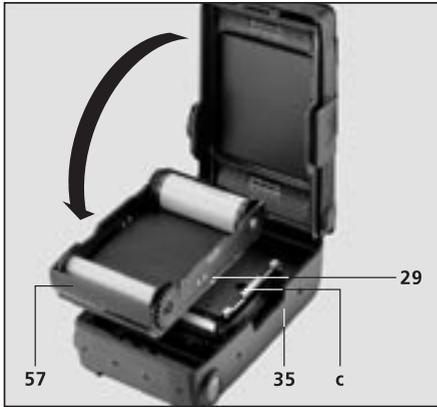
ニッカドバッテリーの装着

充電済みのニッカドバッテリー [8] を、グリップパー [77] を下にしてカメラにバッテリーをしっかり押し込み、グリップパーを押し込みます。

レンズの着脱

レンズのバヨネットマウント [67] にある赤い印をカメラ側のバヨネットマウント [18] の赤い点と合わせてレンズを挿入し、時計方向へ止まるまで回します。

赤いレンズ取外しボタン [72] をボディの内側に押し、ボディキャップを時計の針と反対方向に回して外します。



フィルムの装填

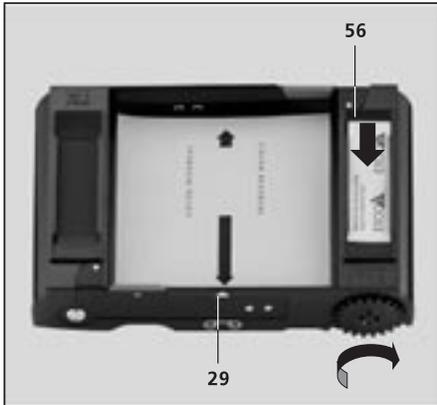
フィルムマガジンのラミネートスライド操作レバー [49] を「magazine change(マガジン交換)」の位置までいっぱい押し上げます。

マガジンバック開閉ボタン [34][48] を押してマガジンのバック部 [35] を開け、フィルムインサート [57] を取出します。

固定用スプリング [55] の赤いタブを外側に引き、フィルムの装填表示 [58] の方向にフィルムスプールを挿入します。裏紙の先端をまっすぐに引いて、空スプール [28] に通し、裏紙のスタートマークがマガジンの白いスタートマーク指標 [29] に合うまで巻き上げます。

フィルムパッケージの蓋をフィルムメモホルダー [56] (フィルムの入ったスプールの裏側) に入れます。

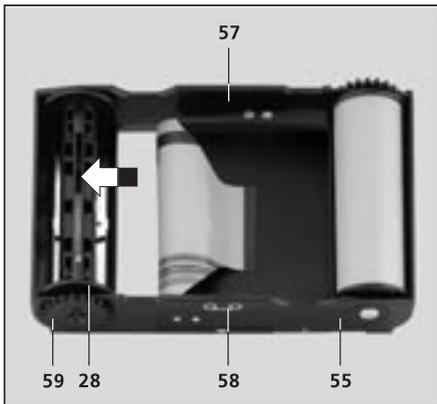
フィルムインサートをマガジンバック内側にある図の方向にフィルム入りスプール  と空スプール  の向きを合わせ、入れます。



ご注意

裏紙はプレッシャープレートスプリング (c) の上になります。マガジンバックはしっかり閉めて下さい。

ラミネートスライド操作レバーを最後まで押し下げ、ISO フィルム感度をフィルム感度設定ダイヤル [37] で設定します。



BRIEF INSTRUCTIONS



マガジンの取付け方

マガジンをカメラ本体のヒンジにかけ、固定するまで押し込みます。

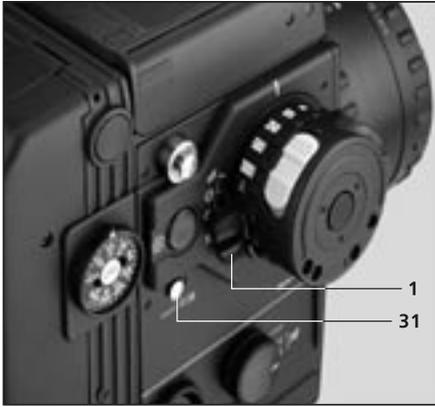
ラミネートスライド操作レバー[49]をフレームカウンター窓[51]の先まで下げます。

これによりラミネートスライドが開き、マガジンがカメラに固定されます。

フィルムのセット

メインスイッチ [1] を回して "S" にセットし、シャッターリリースボタン [20] または [24] を押します。

フィルムが最初のコマまで進みフレームカウンター窓 [51] に "1" が表示されます。もし "1" が表示されない場合はもう一度シャッターボタンを押します。

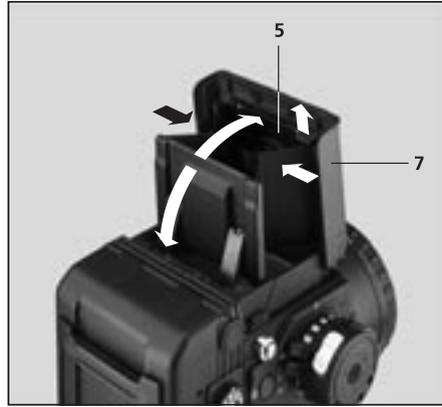


スイッチの on / off

メインスイッチ [1] を "off" にセットすると電気回路がオフになり、他の操作を行っても不用意にカメラが動作することはありません。

このスイッチ [1] を他のモード、"S" (シングルショット)、"C" (連続ショット)、または "S ±" (ブラケットリング) にセットすると、メモリースイッチ [27]、いずれかのシャッターボタン、絞り込みボタンあるいはミラーアップボタン [73] が動作可能になります。カメラが動作していない時はファインダーディスプレイ [12] に何も表示されません。

初期設定ではカメラは 40 秒間動作可能状態を保持します。(マスターウェアで変更可能) 何らかの操作を行なった時はさらにその後 40 秒間延長されます。マルチスポットモード時、およびメモリースイッチロック時は 4 分間の保持となります。



ファインダーフードの開閉

●ファインダーフードの開け方

折り畳み式ファインダーフード [7] の後部をを起こして跳ね上げます。

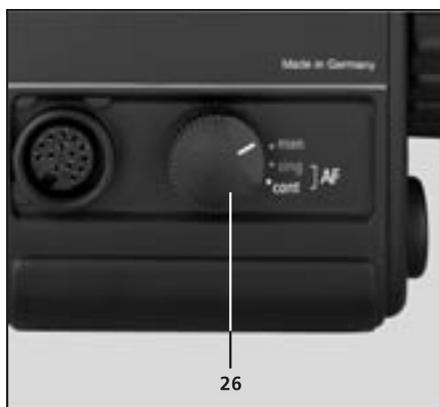
スプリングで固定されているマグニファイヤーホルダー [5] を起こすときは、カバーの右端にある小さなレバーを押し上げます。

●ファインダーフードの閉め方

マグニファイヤーホルダー [5] を内側に折り畳み、マグニファイヤー [6] を収納します。

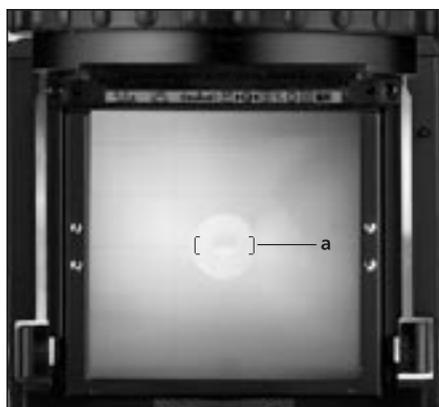
そして両側のパネルを内側に押しすとフードは自然に閉まります。

BRIEF INSTRUCTIONS



フォーカシング

フォーカスモードダイヤル [26] を使用し、フォーカス・モードをオートフォーカス（AF シングル測距 = "sing"、AF 連続測距 = "cont"）とマニュアルフォーカス = "man" に切り替えます。



オートフォーカス (AFシングル測距="sing")

フォーカシングスクリーン上で、被写体のピントを合わせたい部分にフォーカスエリア (a) を合わせ（挿図参照）レリーズボタン [20] または [24] を半押しします。

AF レンズは自動的に合焦します。フォーカシングをやり直すには、レリーズボタンを一度離してからもう一度半押しします。ファインダー内のディスプレイ [12] に合焦表示が出れば、被写体にピントが合っています。

合焦表示マークが三つとも点滅していれば、オートフォーカスは不可能です。この場合はフォーカスエリアを、被写体と等距離にある、もっとコントラストがあるか、はっきりした模様があるものに移してピントを合わせます。あるいはマニュアルフォーカスを行います。

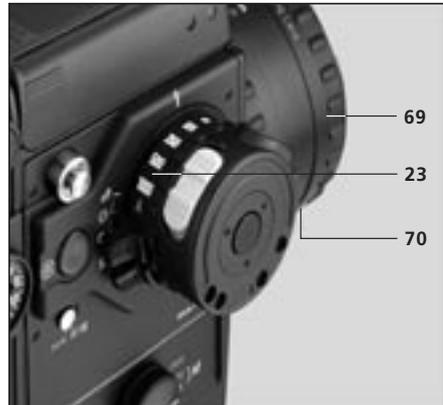


マニュアルフォーカス (マニュアル測距="man")

フォーカスリング [71] を回してピントを合わせます。

フォーカシングスクリーンでピントを合わせるか、フォーカスエリアを被写体のピントを合わせたい部分に重ね、ファインダーディスプレイ [12] 上の合焦表示によってピントを合わせます。

合焦表示の中央マークだけが出るまでフォーカスリング [71] を回します。矢印が出ている時はその方向にフォーカスリングを回します。合焦表示マークが三つとも点滅していれば合焦表示マークによるピント合わせは不可能です。この場合はフォーカスエリアを、被写体と等距離にある、もっとコントラストがあるか、はっきりした模様があるものに移してピントを合わせます。



露出モードの選択

1. プログラム AE :

絞りリング [69] とシャッタースピード設定ダイヤル [23] を共に "A" にセットします。シャッタースピードは 1/125 秒を基本にプログラムされています。

2. 絞り優先 AE :

シャッタースピード設定ダイヤルを "A" にセットし、絞りリングにある赤い絞りロックボタン [70] を押して希望の絞り値にセットします。

3. シャッタースピード優先 AE :

絞りリングを "A" にセットし、シャッタースピード設定ダイヤルを希望のシャッタースピードにセットします。

4. マニュアルモード :

絞りとシャッタースピードを任意に設定することができます。

ファインダーディスプレイ [12] の緑の LED だけが点灯するように絞りとシャッタースピードを調整します。

BRIEF INSTRUCTIONS

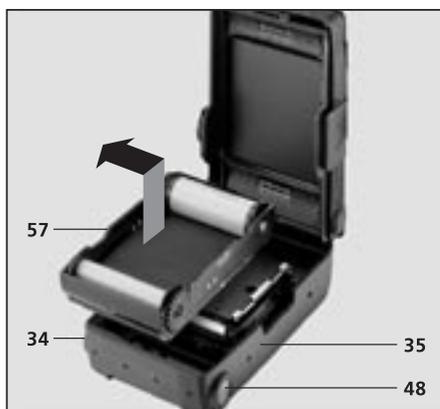


測光モードの選択

測光モード切替ダイヤル [44] で測光モードをセットします。

- 通常の被写体に適した中央部重点マルチパターン測光
- 逆光やコントラストが強い場合に適したスポット測光。(測光範囲はスプリットイメージ部分のみ)
- 被写体 5 点をスポット測光可能なマルチスポット測光。
- ☑ P60 をご覧ください。

※測光モードの詳細については 41 ページをご覧ください。

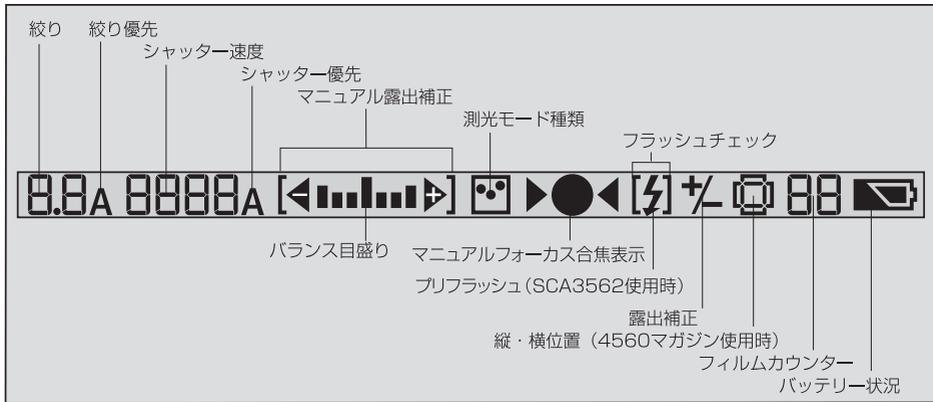


フィルムの取出し

フィルムは最後のコマの撮影が終わると自動的に巻取ります。次にマガジンバック開閉ボタン [34] および [48] を押してマガジンバック [35] を開きフィルムインサートを取り出します。フィルムの巻取られたスプールを取出してシールします。そして、フィルムインサート [57] を戻してマガジンバックを閉じます。

ご注意

マガジンバックを操作する際は、必ずラミネートスライド操作レバー [49] を「magazine change / film insert remove」までいっぱい押し上げてから行って下さい。内蔵式ラミネートスライドを破損する場合があります。



ファインダーディスプレイ表示

カメラの重要なデータは全てファインダー内のディスプレイ [12] に表示されます。

- AE モード
- シャッター速度と絞り値
- マニュアル露出補正用スケール
- 測光種類
- マニュアルフォーカス / 合焦表示
- フラッシュチェック
- バッテリー状況

カメラの取扱と使用方法

ここではカメラの各モジュールの組み立てから撮影済みフィルムの取り出しまでの重要な操作方法を順を追って解説します。必要に応じてさらに取扱いのヒントが記載され、より明確に理解できるようにしてあります。

実用的なアドバイスは 77 ページをご覧ください。もし何らかの問題が発生した場合には 96-99 ページのトラブルシューティングをご覧ください。

ご注意

基本的な構成で、カメラはそのコンポーネント全てをしっかりと保護できるようにデザインされたパッケージに梱包されています。このパッケージは後日のために保管しておくことをおすすめします。また、カメラおよびレンズのシリアルナンバーは控えておくことをお勧めします。紛失や盗難の際には持ち主であることを証明する助けになります。



レンズの装着

赤いレンズ取外しボタン [72] をボディの内側に押し、ボディキャップを時計の針と反対方向に回して外します。

レンズのバヨネットマウント [67] にある赤い印をカメラ側のバヨネットマウント [18] の赤い点と合わせてレンズを挿入し、時計方向へ止まるまで回します。

ニッカドバッテリーの装着

充電済みのニッカドバッテリー [8] を、グリップパー [7] を下にしてカメラにしっかり押し込み、グリップパーをかみ合わせます。



ネックストラップの取付け方

ネックストラップのラッチ付の金具の穴をストラップ取付け金具 [3] と [42] に押し込んで取付けます。ストラップを外す時はラッチ爪を上げてストラップ取付け金具から外します。ストラップは金具の部分で自由に回転します。

ファインダーフードの開閉

●ファインダーフードの開け方

折畳み式ファインダーフード [7] の後部を起こして跳ね上げます。

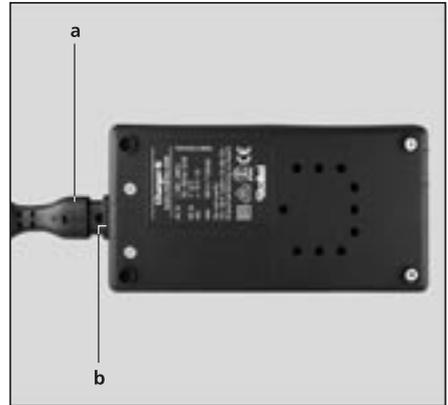
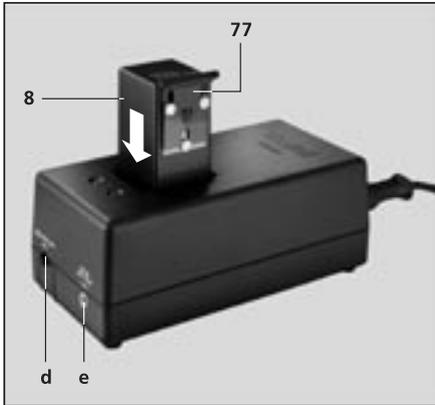
スプリングで固定されているマグニファイヤーホルダー [5] を起こすときは、カバーの右端にある小さなレバーを押し上げます。

●ファインダーフードの閉め方

マグニファイヤーホルダー [5] を内側に折り畳み、マグニファイヤー [6] を収納します。

両側のパネルを内側に押しすとフードは自然に閉まります。

CHARGING THE BATTERY



バッテリー充電

バッテリー [8] を充電する場合は、約 2 秒後に急速充電が開始され赤い LED ランプが点灯します。赤い LED ランプが消えれば充電は完了です。

急速充電中はバッテリーの電圧と温度を検知し、バッテリーの電圧が上がリ、フル充電になると自動的に標準充電に切り替ります。標準充電は、自然放電を補充する充電量ですので、過充電を防止します。

急速充電は約 1 時間で終了します。バッテリー温度が 45°C を超えると、赤い LED ランプが消えて温度が十分下がるまで急速充電は停止します。急速充電時の周囲温度は約 5°C から 35°C 範囲内でお使い下さい。充電完了時間はバッテリーの充電状態で異なります。

充電器の電源コード (a) を充電器のソケット (b) に差し込み、電源プラグを AC コンセントにつなぎます。充電器の緑のランプが点灯するまで数秒かかります。その後、グリップバー [77] を押し上げ、カメラからバッテリー [8] を取り出してから写真のように充電器に挿入します。充電時間は最低 10 分以上、通常は 1 時間で充電が完了します。この充電器は家庭用の AC100V から 240V までの電圧でそのままご使用いただけます。



ヒント 1:

急速充電から標準充電に切り換ってから、再度、急速充電を始める時は、バッテリーを持ち上げ、1度接点ピンから外してから差し直します。

ヒント 2:

バッテリーの温度が上昇している場合、バッテリーを充電器に挿入しても赤いLEDランプは点灯しないことがあります。バッテリー温度が45℃以下になると急速充電が開始されます。

カーバッテリーからの充電

カーバッテリーコード（別売）を使用して、充電器の「DC in」ソケット（写真・d）と車のシガーライターソケットをつなぎます。

12Vのカーバッテリーで標準充電を行う場合、充電時間は約12時間かかります。カーバッテリーからの充電の際は赤いLEDランプや緑のLEDランプは点灯しません。

その他の電源

外部電源として、12V DCで500mAの容量のものが充電器の3.5mmジャックに接続できます。緑色LEDが準備完了を示します。接続ケーブルの最大の長さは2mです。

バッテリー状況

カメラの測光スイッチ [27] を ON にするとバッテリーの状況がファインダーディスプレイ [12] に表示されます。

 : バッテリー残量は十分にあります。

 : バッテリー残量が低下しています。
早めの交換をお勧めします。

 : バッテリー残量はほとんどありません。
充電するか、充電済みバッテリーと交換して下さい。

ファインダーディスプレイ [12] に「CHArGE」の表示が出ると、ほとんどカメラは作動できません。

極寒の気象条件下 (-10°C以下) では、バッテリーを保温のきく温かいポケットなどに入れて持ち運び、撮影する寸前にカメラに挿入して使用するようして下さい。

またはバッテリー延長ケーブル (66252) を使用することをお勧めします。

その他、極点撮影、冷凍室、あるいは冷温研究室所などの極端な撮影条件の場合においては、カメラ本体も保温するようにしてください。

また、外部電源ユニット (別売) は上記条件の撮影において非常に有効なアクセサリです。



ご注意

バッテリーが極端に消耗しないように、使用後は必ずカメラのスイッチを切ってください。メインスイッチ [1] を "OFF" にし、AE ロックスイッチ [27] は外して下さい。

すべての充電器のニッカドバッテリーは、使用しなくても徐々に放電します。カメラをいつでも使用できる状態に保つために、使用しない時でも2～3ヶ月に1度はバッテリーの充電を行うようにして下さい。

ニッカドバッテリーの交換

充電済みのニッカドバッテリー[8]を、グリッパ[77]を下にしてカメラにしっかり押し込み、グリッパをかみ合わせます。

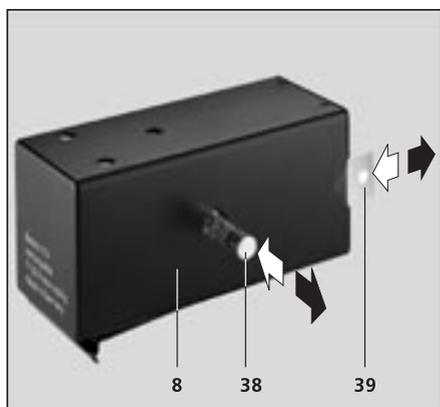
フル充電のニッカドバッテリーは常温（20℃）で約500回の撮影が可能です。これで120タイプのフィルムで約40本、220タイプのフィルムで約20本撮影できます。

ご注意

バッテリーを交換する際には必ずカメラのスイッチをOFFにして下さい。

記憶された露出値が消えてしまいます。

CHANGING FUSES



ヒューズの交換

ニッカドバッテリーを外し、ヒューズ [9] を抜きます。スペアヒューズ保護パネル [39] を引いてスペアヒューズ [38] を取出します。ヒューズを押し込み完全にセットして保護パネルを閉めます。新しい予備ヒューズ（20mm カートリッジ、1.25A、250V、スローブロー）はできるだけ早めに補充して下さい。ヒューズは、RPD店（ローライプロフェッショナルディーラー）でお求め下さい。

ご注意

故障の原因になりますので、指定された定格以外のヒューズは絶対に使わないで下さい。万が一、予備ヒューズも切れてしまった場合、その原因としては、フィルムの装填不良（特にフィルムがまっすぐ巻かれていない）や、極寒でフィルムが切れていたり、フィルムが裏紙から剥がれていたりなどが考えられます。



アクショングリップの取付け

アクショングリップ [21] の着脱の際は、誤ってシャッターが切れないようにメインスイッチ [1] を "OFF" にして下さい。

シャッタースピード設定ダイヤル [23] を "B" の先の赤い<>印まで回したままの状態（スプリングの圧力がかかります）でアクショングリップ固定シャフト [66] をダイヤルのアクショングリップ取付口 [25] に押し込みます。

ダイヤルを放すと赤い<>位置から "B" に戻り、アクショングリップはカメラに固定されます。アクショングリップを外す時はシャッタースピード設定ダイヤルを赤い<>印まで回し、アクショングリップをダイヤルから引き抜きます。



アクショングリップ位置の調整

アクショングリップ [21] はファインダーフード（ウェストレベル）やプリズムファインダー（アイレベル）に合わせて4つの角度に固定することができます。

アクショングリップの調整は、内側のグリップ角度調整ボタン [65] を押してアクショングリップを動かし、ロックピンが噛み合うまでアクショングリップを前後に動かします。



ストラップの調整

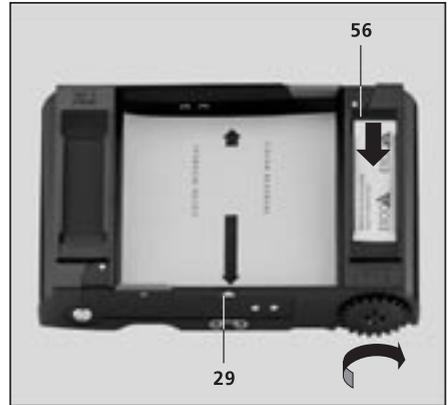
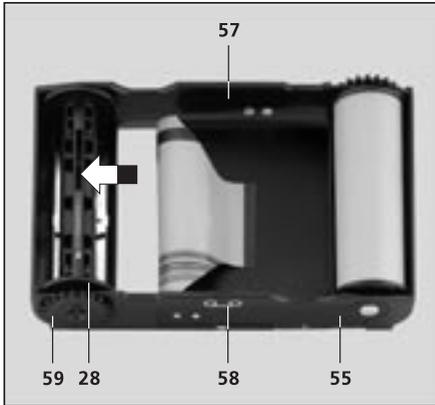
ストラップのプラスチック金具を調整し、右手でカメラを持つのにちょうど良い長さに調整します。

ストラップを取外す時は、ボールペンのような先の尖ったものでアクショングリップの両端にある小さなロックピンを押しながら、ストラップ・ブラケットを溝から引き抜いて下さい。

ストラップを取付ける時は、ベルトがまっすぐに付いた長いブラケット側が下になり、ベルトが斜めに付いた短いブラケット側が上に来るように注意して下さい。

再びロックピンを押しながら、ストラップ・ブラケットをグリップに挿入し、ピンが引っ掛かったことを確認して下さい。

LOADING AND CHANGING FILM INSERTS



フィルムインサートの装填

フィルムマガジンのラミネートスライド操作レバー [49] を "MAGAZIN CHANGE" (マガジン交換) の位置までいっぱい押し上げます。

マガジン開閉ボタン [34] [48] を同時に押し、マガジンバック [35] を開け、フィルムインサート [57] を取り出します。

バック部分の横の切り込みからフィルムインサートを持つと容易に外せます。先にフィルムインサートのヒンジに近い端を持ち上げ、全体を取り出します。

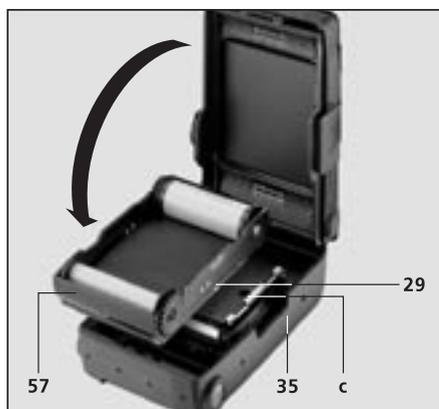
フィルムインサートのスプール固定用スプリング [55] の赤いタブを外側に引き、フィルム装填表示 [58] の方向にフィルムスプールを挿入します。裏紙の先端をまっすぐに引いて空スプール [28] に通し、裏紙のスタートマークがフィルムインサートの白いスタートマーク指標 [29] に合うまで巻き上げます。

フィルムのパッケージの蓋をフィルムホルダー [57] (フィルムの入ったスプールの裏側) に入れます。

フィルムインサートは左右対称なので、どちら側にもフィルムあるいは空スプールを入れることができます。したがってフィルム装填の時、空になったスプールを反対側に移す必要がありません。

カメラにはフィルムインサートが1個付いていますが、能率よく撮影するにはスペアの交換マガジンに加え、余分にフィルムインサートをお持ちいただくことが理想的です。

またフィルムを装填したフィルムインサートを用意することでフィルム交換を迅速に行うことができます。フィルムインサートは120マガジンと220マガジンに共通で使用できます。



ご注意

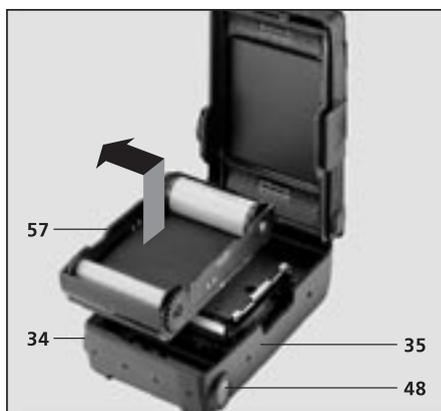
気温 0℃以下においては、最初のコマまで進める事をお勧めします。フィルムの裏紙に付いている接着テープが寒気でもろくなり、フィルム送りに支障を起こす事があるからです。

フィルムインサートの交換

マガジンバック [35] を開けて写真のようにフィルムインサート [57] を入れます。マガジンバックを完全に開けた状態で、フィルムインサートの空スプール [28] にある側を最初に入れ、次にフィルムの入った側を入れると簡単に入ります。フィルムの側端をプレッシャー・プレートの端にあるスプリング "c" の下に挟まないで、必ずスプリングの上にくるようにして下さい。フィルムの給送システムがフィルムを正しい位置に保ち、フィルムを自動的にスプリング "c" の下に挟みます。

マガジンバックのカバーを確実に閉めます。ラミネートスライド操作レバー [49] を下までしっかりと押し下げるとシャッターロックが外れます。メインスイッチ [1] を回して "5" にセットし、シャッターレリーズボタン [20] または [24] を軽く押します。フィルムが最初のコマまで進み、フレームカウンター窓 [51] に "1" が表示されます。もし "1" が表示されない場合はもう一度シャッターを押します。

REMOVING THE FILM



フィルムの取出し

最後の撮影が終わったら、フィルムの裏紙が最後まで巻取られるのを待ちます。ファインダーに「END」と表示されたらラミネートスライドレバー [49] を "magazine change / film insert remove" の位置までいっぱい押し上げ、マガジンバック [35] を開けて下さい。

フィルムインサート [57] を取出し、撮影済みのフィルムを外してシールします。フィルムインサートを交換 (場合によってはフィルムの再装填) してマガジンバックを閉めます。

ご注意

マガジンバックを操作する際は、必ずラミネートスライド操作レバー [49] を「magazine change / film insert remove」までいっぱい押し上げてから行って下さい。内蔵式ラミネートスライドを破損する場合があります。



フィルム感度の設定

マガジンに付いているフィルム感度設定ダイヤル [37] を回し、装填されているフィルムの ISO 感度に設定します。このダイヤルは設定値ごとにカチリと止まります。中間値の設定はしないで下さい。

フィルムの感度は ISO25 から 6400 まで設定できますので、世界で市販されているすべてのフィルムに対応できます。もし使用中にフィルム感度を変更したり、異なるフィルム感度のマガジンを装着した場合には、約 1 秒間だけシャッタースピードの表示がフィルム感度の表示に変わります。またマガジンを外しているときは自動的に 100 と表示されます。

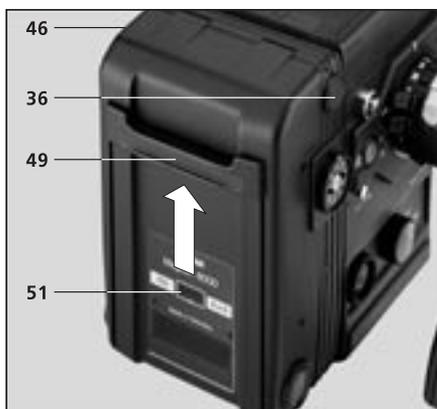
REMOVING/CHANGING MAGAZINES



ご注意

フィルム感度設定機能が無いローライフレックス 6006 用交換マガジンを 6008AF にお使いになる場合、フィルム感度は ISO100 に設定されます。ISO100 以外の感度のフィルムをご使用になるには露出補正ダイヤル [43] をセットすることで ISO25 から 2500 までフィルム感度を設定できます。

ISO感度	25	50	100	200	400	800	1600	2500
EV 補正	+2	+1	0	-1	-2	-3	-4	-4 $\frac{2}{3}$



マガジンの交換

ラミネートスライド操作レバー [49] を一番上の "magazine change" (マガジン交換) までいっばいに押し上げます。

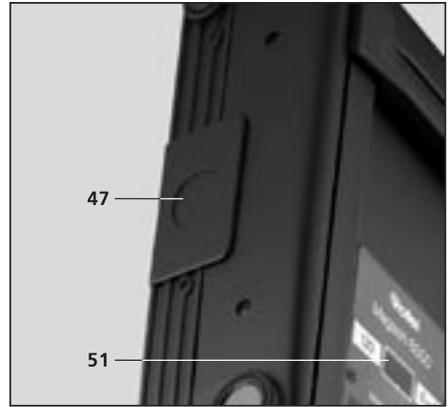
左右のフィルムマガジン取外しボタン [36] と [46] を一緒に押してマガジンを離し、ヒンジから外します。

次に別のマガジンをまっすぐにヒンジにかけ、固定するまで押し込みます。そしてラミネートスライド操作レバー [49] を、フレームカウンター窓 [51] の先まで下げます。これによりラミネートスライドが開き、マガジンがカメラに固定されます。

INTERCHANGEABLE MAGAZINES

ローライフレックス 6000 シリーズには下記の 4 種類のマガジンが用意されています。

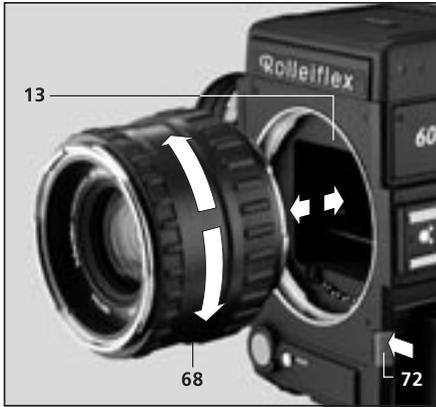
- フィルムマガジン 6000 [6x6/120]
(コード No.66211) 6x6/12 枚撮り
- フィルムマガジン 6000 [6x6/220]
(コード No.66212) 6x6/24 枚撮り
- フィルムマガジン 4560 [6x4.5/120-220]
(コード No.66213) 6x4.5/16-32 枚撮り
※ 4560 マガジンを使用するためには
別途マガジンアダプター
(コード No.66214) が必要です。
- ローライポラロイドマガジン [6x6]
(コード No.66216)
6x6/ 撮影枚数はフィルムによる



マガジンの識別

ステッカー用スペース [47] を使用し、色分けしたり、番号をつけたりしてマガジンを識別することができます。

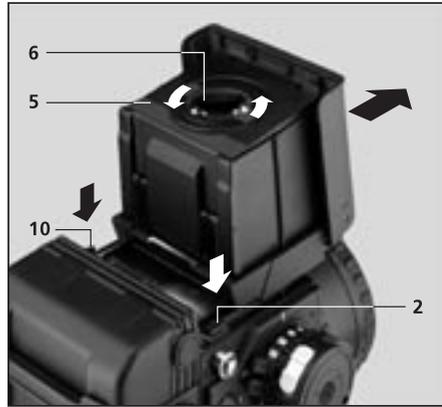
また、フレームカウンター窓 [51] の周りの色分けされた文字はマガジンのタイプを表します。



レンズの交換

カメラボディに装着されたレンズを、赤いレンズ取外しボタン [72] を押して時計の針と反対方向に回して取外します。

交換するレンズの赤い印をカメラのバヨネットマウント [18] の赤い点と合わせ、レンズを挿入して時計方向に「カチッ」と音がするまで回してかみ合わせます。



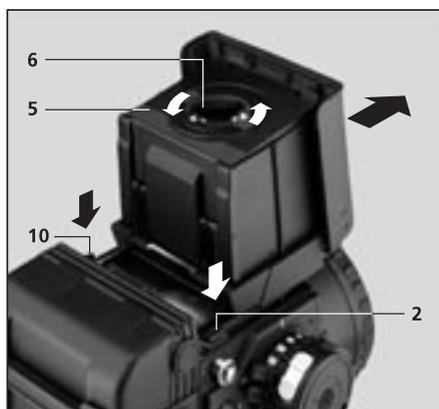
ファインダーフードの交換

標準装備のファインダーフード [7] を開け、左右のファインダーフード取外しボタン [2][10] を同時に押しながらファインダーフードをレンズ方向にスライドさせながら外します。

同様に、別のファインダーを装着するときは、後方へ水平にスライドさせますが、この時取外しボタンは押さなくても自然にロックされます。「45°プリズムファインダー」または「90°プリズムファインダー」を装着した場合でも、ファインダーは標準装備のフードと同様の位置で左右正像に表示されます。

ファインダーは自動的にファインダーディスプレイを正しい表示に切替えます。

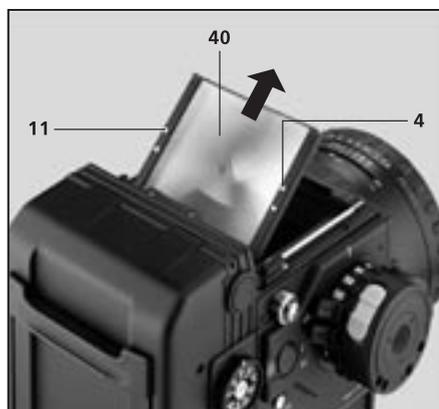
CHANGING MAGNIFIERS



マグニファイヤーの交換

ファインダーフードのマグニファイヤー [6] (視度補正レンズ) は交換することができます。眼鏡をかけずにファインダーをのぞくことができるように、+2.5 ~ -4.5 ディオプターまで用意されています。

視度補正レンズを交換するには、フードのサイドフラップの両端を親指と人差し指で持ちます。次にもう一方の手で、マグニファイヤーの把手を時計の反対方向に回して外します。そして別のマグニファイヤーを入れ、時計方向に回して固定します。



フォーカシングスクリーンの交換

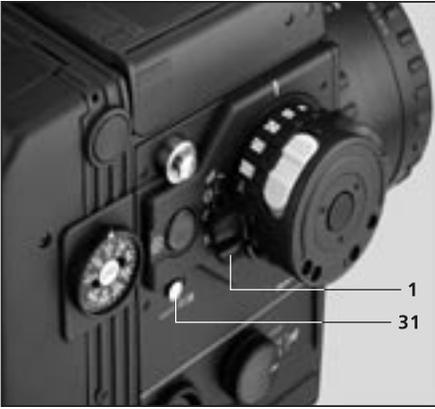
折り畳み式ファインダーフード (あるいは使用中のファインダーフード) を取外し、フォーカシングスクリーン枠・把手 [4][11] を後ろに引いてフレームを上を起こします。

次に、静かにスクリーン [40] を枠から抜きます。スクリーンは側面だけを持ち、表面に触らないで下さい (手袋のご使用をお勧めします)。埃が入らないように包んで保管します。

そしてツヤ消しの面をミラー面に向かわせながら、別のスクリーンをスプリングと枠の間に入れます。

最後にフレームを下ろし、軽く後ろに引きながら、両側が固定されるまで押し込みます。

※取付けの際はスクリーンの表裏を十分確認して取付けて下さい。



スイッチのon/off

メインスイッチ [1] を "off" にセットすると電気回路がオフになり、他の操作を行っても不用意にカメラが動作することはありません。

このスイッチ [1] を他のモード、"S" (シングルショット)、"C" (連続ショット)、または "S ±" (ブラケットリング) にセットすると、メモリースイッチ [27]、いずれかのシャッターボタン、絞り込みボタンあるいはミラーアップボタン [73] が動作可能になります。カメラが動作していない時はファインダーディスプレイ [12] に何も表示されません。

初期設定ではカメラは 40 秒間動作可能状態を保持します。(マスターウェアで変更可能) 何らかの操作を行なった時はさらにその後 40 秒間延長されます。マルチスポットモード時、およびメモリースイッチロック時は 4 分間の保持となります。

シングルショット

メインスイッチ [1] を "S" にセットすると、シャッターボタン [20] または [24] を押すたびに 1 コマの撮影が行なわれます。次のコマを撮影するには一旦ボタンを離し、再度押します。

連続ショット

メインスイッチ [1] を "C" にセットすると、シャッターボタン [20] または [24] が押されている間連続撮影を行ないます。最高撮影速度は常温 (20 °C)、満充電時、1/250 秒以上のシャッタースピードで約 2 コマ/秒です。

オートブラケットング機能

ブラケットング機能は、メインスイッチ [1] を回して「S±」にセットします。カメラは適性露出のオーバーとアンダーに露出を少し変えて連続撮影を行います。オートブラケットング機能についての詳細は P53 をご覧ください。

サイレント動作 (カスタム機能のデフォルト設定)

フィルム巻き上げ時の音が静かになり、同時に遅くなります。この時の最高撮影速度は約 1 コマ/秒になります。"サイレント動作" カスタム機能がカスタム機能スイッチ [31] にプログラムされていない場合は "カスタム機能" をご参照ください。

ご注意

4560 マガジンを使用している時はサイレント動作カスタム機能は使用できません。

連続撮影の枚数制限

連続ショットモードでの撮影枚数の制限を設定できます。まずカスタム機能スイッチ [31] に制限機能 "SF Coun" をセットします ("カスタム機能" を参照)。この機能はカスタム機能スイッチが ON になると作動します。

初期設定値は 2 枚です。これはマスターウェアにより変更できます。ここで設定された枚数を撮影し終わったら、一旦シャッターボタン [20] または [24] を離して再度押すことで撮影を再開できます。

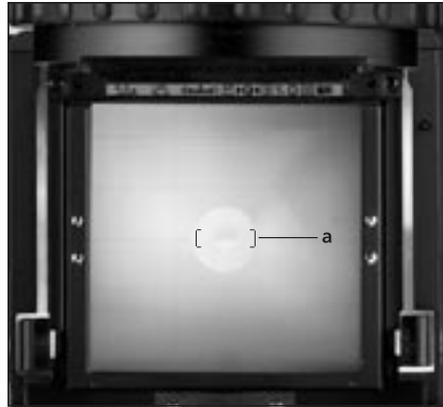
連続撮影中にシャッターボタン [20] または [24] を押すことで中断することができます。再度押すことで次の連続セットが撮影できます。



フォーカシング

フォーカスモードダイヤル [26] を使用し、フォーカス・モードをオートフォーカス（AF シングル測距="sing"、AF 連続測距="cont"）とマニュアルフォーカス="man" に切り替えます。

フォーカス機能はシャッターが切れます。間違つてシャッターを切ってしまうために、まずレリーズボタン [20] または [24] の押し方（半押しと、いっばいに押すこと）に慣れてください。カメラの AF モジュールは普通 3 個のセンサーで合焦を行います。中央のセンサーは特に垂直パターン、両側の 2 個は水平パターンに反応します。スポット AF の場合はメニューモード（カスタム機能、参照）で両側のセンサーを使わずにすることができます。



注意

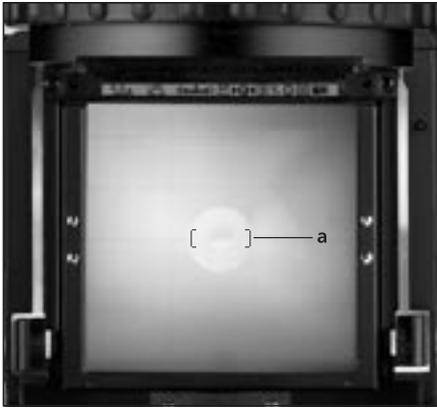
測距エラーを避けるために、フォーカシングスクリーンに迷走光が入らないように気をつけて下さい。

フォーカシング

三脚にカメラを取り付けてファインダーを使わずに撮影する場合、ファインダーフード [7] を閉じるか、プリズムファインダーを使用してください。マグニファイヤーホルダー [5] を上げていると迷走光がガラスに反射するような影響が出る場合があります。

MF レンズを使用していて、フォーカス・モードがオートフォーカス (AF シングル測距 = "sing"、AF 連続測距 = "cont") になっていた場合、カメラはマニュアルフォーカス = "man" にセットされたと同じに反応します。しかしピント合わせに AF システムを利用したい場合にはレリーズボタン [20] または [24] を半押ししてください。

オートフォーカス機能、またはフォーカス機能を利用してマニュアルフォーカスを行うには、レンズの明るさが F5.6 以上であることが必要です。クローズアップ用アクセサリ、テレコンバーターを使用する時に特に注意してください。



AFシングル測距

フォーカシングスクリーン上で被写体のピントを合わせたい部分にフォーカスエリア (a) を合わせて (挿図参照) レリーズボタン [20] または [24] を半押しします。レンズは自動的にピントを合わせます。合焦マークの中央のものがディスプレイ [12] に現れます。フォーカシングをやり直すには、レリーズボタンを一度離してからもう一度半押しします。

合焦表示マークが三つとも点滅していれば、オートフォーカスは不可能です。この場合はフォーカスエリアを、被写体と等距離にある、もっとコントラストの強いはっきりした模様があるものに移してピントを合わせます。必要ならマニュアル測距を行います。

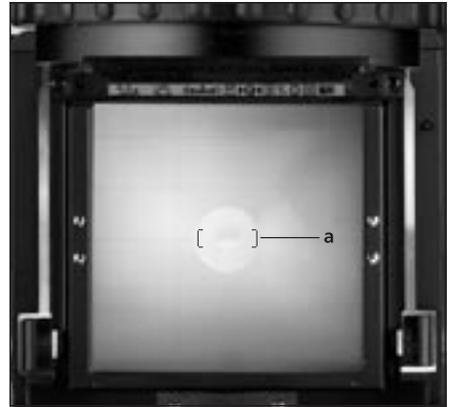
AFシングル測距はフォーカス優先です。つまりピントが合っていないとシャッターは切れません。

AF連続測距

シングル測距とは対照的に、AF連続測距ではレリーズボタンを半押ししている間AFが作動を続けます。被写体がフォーカスポジションを外れると、レンズは合焦をやり直します。

このモードはレリーズ優先です。レリーズボタンを押せば、合焦状況に関係なくシャッターが切れます。その他の機能はAFシングル測距と全く同じです。

MANUAL FOCUSING



マニュアルフォーカス

フォーカスリング [71] を回してピントを合わせます。フォーカシングスクリーン上でピントを合わせるか、フォーカスエリアを被写体のピントを合わせたい部分に重ね、ファインダーディスプレイ [12] 上の合焦表示によってピントを合わせます。

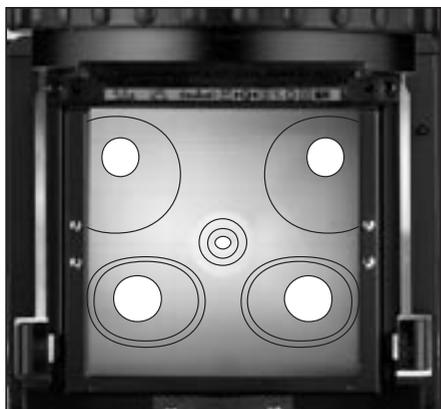
合焦表示の中央マークだけが出るまでフォーカスリングを回します。矢印が出ている時はその方向にフォーカスリングを回します。(下表参照)

ディスプレイ表示	フォーカス範囲
	被写体より遙か後方
	被写体より遙か前方
	被写体のすぐ後方
	被写体のすぐ前方
	被写体に合焦
	合焦不能

合焦表示マークが三つとも点滅していれば、合焦表示システムによるピント合わせは不可能です。この場合はフォーカスエリアを、被写体と等距離にある、もっとコントラストがあるか、はっきりした模様があるものに移してピントを合わせます。あるいはマニュアルフォーカスを行います。

注意

焦点距離 180mm 以上のレンズを使用する場合は、前もってマニュアルで大まかな距離合わせをしておくようにしてください。測距エラーが起きる場合があります。



測光モードの選択

中央部重点マルチパターン測光：

半透過性クイックリターン・ミラーの後ろにある7個のシリコン・フォトダイオード（SPD 受光素子）がレンズを通して入る光を測定します。画面を5つのグループに分けたSPD受光素子の配置により、ほとんどの被写体に対応できる中央部重点マルチパターン測光です。

この測光モードの選択は、測光モード切換ダイヤル [44] を ■ にセットします。

スポット測光

コントラストが強い被写体の一部分を測光したり、逆光時の被写体を正確に測光することができます。ハイ-Dスクリーン上では、スプリットイメージに円枠がスポット測光する範囲を表します。これは画面の約1%に相当します。実際の撮影ではこの部分が画面の中心にくることは稀なので、あらかじめスポット測光してから測光値を記憶させ構図を合わせて下さい。

この測光モードの選択は測光モード切換ダイヤル [44] を  にセットします。ディスプレイ [12] 右側の  表示も、このモードを表します。

マルチスポット測光

このモードでは、被写体の各部分の5カ所をスポット測光します。ハイライトおよびシャドウ部分、あるいはその他の中間部分などを測光スイッチ [27] を使って測光値を記憶させます。カメラのマイクロプロセッサはこれらの中間値を計算し、この値を撮影するまで記憶させることができます。

この測光モードの選択は、測光モード切換ダイヤル [44] を  にセットします。スポット測光と同様、 がディスプレイ [12] に表示されます。

ご注意

マルチスポット測光モードの状態ではカメラのスイッチを入れると、カメラは最初の測光値を即座に記憶してしまいます。そのような不要な読み込みを避けるため、必ずカメラのスイッチを入れてからマルチスポット測光モードに切り換えて下さい。

EXPOSURE COMPENSATION



露出補正の設定

露出補正スイッチ [43] で希望する値を設定します。交換式フィルムマガジンが装着されていればファインダー内に "+/-" が表示されます。"フィルム感度の設定" も合わせてご覧ください。

露出モードと露出測定

カメラが動作状態の時には露出計も働いています。

露出モードを選択するには以下の手順で行いません。

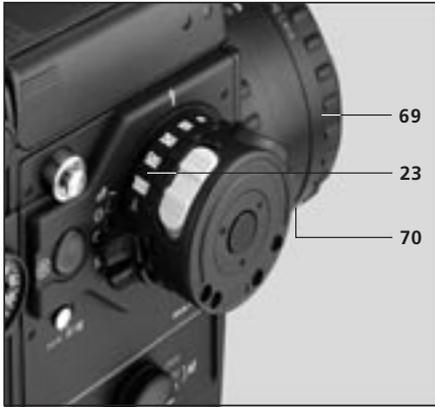


絞り優先 AE

シャッタースピードダイヤル [23] を "A" にセットします。絞りリングロックボタン [70] を押し、絞りリング [69] を解除し、絞りを 1/3 段ステップで設定します。カメラ内部のシャッタースピードに "A" が表示されます。

光の状況によって選択された絞りでは適正な露光が行えない場合はシャッタースピード表示が点滅し、ライトバランスが適正露出からの逸脱量を 1/3 ステップ刻みで表示します (± 1EV の範囲内)。

1EV 以上の差がある時はシャッタースピード表示が点滅します。

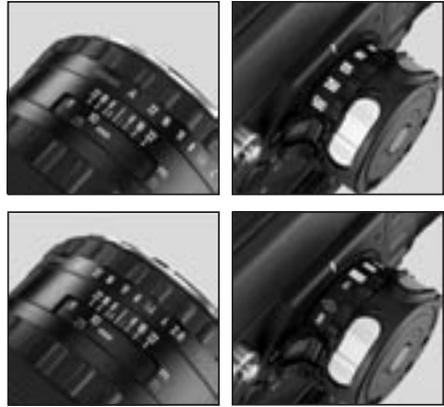


シャッタースピード優先AE

絞りリング [69] を "A" 位置に合わせ、シャッタースピードダイヤル [23] で希望するシャッタースピードを 1/3 段ステップで選択します。カメラ内部の絞りに "A" が表示されます。

光の状況によって選択されたシャッタースピードで適正な露光が行なえない場合は絞り表示が点滅し、ライトバランスが適正露出からの逸脱量を 1/3 ステップ刻みで表示します (± 1EV の範囲内)。

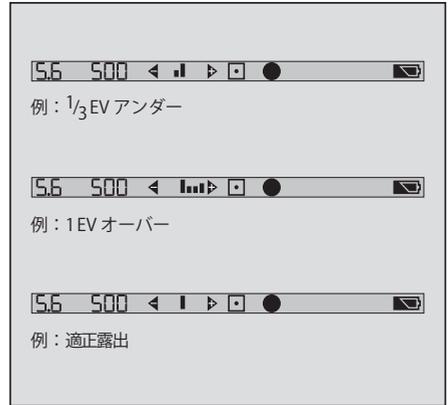
1EV 以上の差がある時は絞り表示が点滅します。



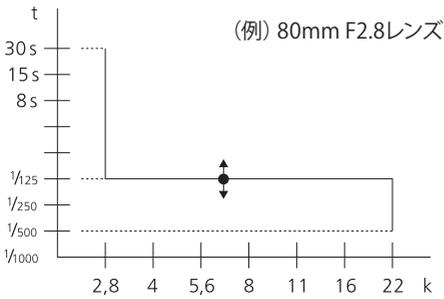
プログラムAE

絞りリング [69] とシャッタースピードダイヤル [23] の両方を "A" に設定します。絞りとシャッタースピード両方に "A" が表示されます。これでカメラは自動的に適切なシャッタースピードと絞りの組み合わせを選択します。デフォルトの設定ではカメラは高速シャッタースピード寄りのプログラムになっており、カメラぶれを最小限に抑えます。デフォルト設定の基本シャッタースピードは 1/125 秒です。

PROGRAM CURVE



プログラムカーブ



光の状況によってカメラが選択したシャッタースピードと絞りの組み合わせでは適正な露光が行えない場合は表示が点滅し、ライトバランスが適正露出からの逸脱量を 1/3 ステップ刻みで表示します (± 1EV の範囲内)。

マニュアルモード

絞りとシャッタースピードを任意に選択できます。

ファインダーディスプレイ [12] に並んだ LED の表示を見ながら絞りとシャッタースピードのどちらを変えても適正露出を設定することができます。緑の LED のみが点灯しているときに適正露出です。

ご注意

自動露出モードで、絞りとシャッタースピードではなく "88 8888" が表示され、ライトバランス全体が点滅した場合は、測光範囲を越えています。マニュアル測光時は絞りとシャッタースピードは表示されて、ライトバランス全体が点滅します。

バルブ/タイムモード

シャッタースピードダイヤルを "B" にセットするとファインダーディスプレイ [12] に "b" と表示され、バルブモードになります。絞りは必ず "A" 以外の絞り値をセットして下さい。

レリーズボタン [20] または [24] を押し続けている間だけシャッターが開き、指を離せばシャッターは閉じます。このとき測光/メモリースイッチ [27] を入れるとタイムモードになり、レリーズボタンを 1 回押すとシャッターが開いたままになります。

さらにもう 1 度レリーズボタンを押せばシャッターは閉じます。



被写界深度の確認

被写界深度を確認するときは、絞り込みボタン [32] を押します。

マグニファイヤー [6] を通してスクリーン上で被写界深度を確認します。



AEロック

難しい露出条件、例えばコントラストの高い被写体の場合とか逆光の場合、被写体の最も重要な部分の露出を測り、メモリースイッチ [27] を押すか露光が終わるまで手前にロックして保存します。

この時露出値はメモリースイッチが解除されるまでメモリーされます。マルチスポットモードではメモリースイッチを軽く押すことにより、個々のスポット測光値をメモリーします。ファインダーディスプレイ [12] にはメモリーモードがライトバランスの周りに四角いマークで表示されます。

ご注意

メモリースイッチが押され、あるいはロックされた場合、カメラは4分間動作状態を保持します。

迷走光補正

フォーカシングフードから入ってくる迷走光は測光時に考慮され、迷走光と測定光の比が約16:1くらいまでは補正されます。この補正はファインダーの種類によって異なります。

マグニファイヤー[6]を使用せずにフォーカシングフードでピントガラスを見る場合は、測光中ピントガラスに直接の光（光源からの直接光、蛍光灯を含む）が入らないようにしてください。タイム露光時には必ずフードを閉じてください。

ご注意

旧型のレンズを使用して絞り込み測光を行なう場合、フォーカシングフードでは容易に補正限界を越えてしまいます。測光時にはマグニファイヤーを出し、フードに顔をつけて余計な光がピントガラスに入るのを防ぐようにしてください。

SHUTTER RELEASE



シャッターレリーズ

- ・カメラ本体で行う場合
シャッターレリーズボタン [20] または [24] を押します。
- ・ケーブルレリーズを使う場合：
ケーブルレリーズをソケット [76] に正しくねじ込んで下さい。

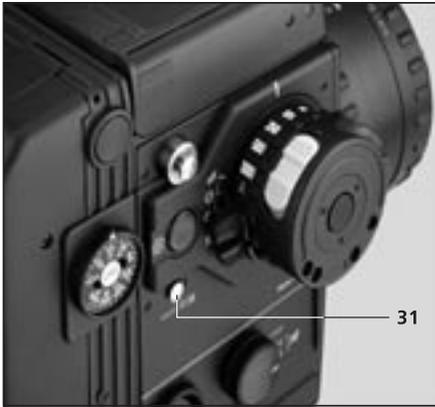


RC-120リモートレリーズを使う場合

- 別売のリモートレリーズ RC-120 を使う場合はコネクタ [30] の保護キャップを外し、リモートレリーズを接続して「Start(開始)」ボタンを押します。
- シャッターを切るとカメラは撮影を行い、ただちにフィルムを次のコマに送ります。

ご注意

ケーブルレリーズあるいはリモートケーブルを使用する場合は連続 AF モードでのオートフォーカスは使えません。



セルフタイマー

カスタム機能スイッチ [31] で "sf/" を選択し、シャッターレリーズボタン [20] または [24] を押すとカウントダウンが始まります。

10 秒のカウントダウンがファインダーに表示され、もう一度シャッターレリーズボタンを押すとその 1 秒後にセルフタイマーを中止することができます。

振動を最小限に防ぐために、シャッターが切れる 2 秒前にミラーが上がり、まもなくシャッターが切れることを知らせます。セルフタイマー終了後はスイッチを戻して下さい。

MIRROR LOCKUP



ミラーアップ

望遠レンズやクローズアップレンズを使う場合など、カメラブレを最小限に防ぐため、露出を決定した後にミラーアップボタン [73] を押してミラーアップさせます。そして次にシャッターリリースボタン [20] または [24] を押して撮影します。

ミラーアップモードでは測光値は約 4 分間記憶されています（この間ファインダーには露出が表示されていますが、絞りが作動中には決して絞り値を変更しないで下さい）。

ミラーアップしてから 4 分以内に撮影して下さい。それ以上経ちますと、記憶された測光値がキャンセルされてしまいます。もしミラーアップした後で撮影を中止したい場合、多重露光スイッチ [45] を "ME" に回してフィルム送りを解除します。そしてレンズキャップでレンズを覆い、シャッターを切ります。

これでミラーは戻り、フィルム送りをしないので無駄な露光は必要ありません。最後に、多重露光スイッチを "SE" に戻すことを忘れないで下さい。

ご注意

4560 マガジン使用時はフィルム送りはマガジン側でコントロールされます。マガジンの取扱い説明書をご参照ください。



オートブラケットリング機能

ブラケットリング機能は AE モードでもマニュアルモードでも使用できる特別な機能です。この機能は適正露出の撮影と、それより 2/3EV づつ露出をオーバーあるいはアンダーにした 2 コマ (計 3 コマ) を自動的に撮影するものです。

ブラケットリング機能は、メインスイッチ [1] を回して「S ±」にセットします。シャッターリリースボタン [20] または [24] はカメラが 3 回露光を行うまで押し続けます。露出補正ダイヤル [43] を使ってブラケットリングの効果をオーバー側やアンダー側へ補正することもできます。

ご注意

ブラケットリングを行う前に、シャッタースピードまたは絞り値の設定が 2/3EV 以上のオーバー、アンダーが可能であることを確認して下さい。

露出モードと機器構成によりブラケットリングは異なった方法になります。

	TTL フラッシュ以外	TTL フラッシュ
プログラム AE	シャッタースピードブラケットリング	フラッシュブラケットリング
絞り優先 AE	シャッタースピードブラケットリング	フラッシュブラケットリング
シャッター優先 AE	絞りブラケットリング	フラッシュブラケットリング
マニュアル測光	シャッタースピードブラケットリング	フラッシュブラケットリング

BRACKETING FUNCTION

シャッタースピードブラケットティング：
シャッタースピードで露出補正を行いません。

絞りブラケットティング：
絞りで露出補正を行いません。

フラッシュブラケットティング：
フラッシュの出力で露出補正を行いません。

ご注意

フラッシュブラケットティングで動作範囲を越えた場合、+/- と $\frac{1}{2}$ のアイコンが点滅します。

"フラッシュブラケットティング" の項をご参照ください。



多重露光

多重露光スイッチ [45] で "ME" (多重露光) を選択します。これにより、フィルム送りを解除して同一のフィルムのコマに何回でも連続して露光することができます。多重露光スイッチの下の赤いマークはカメラが 多重露光にセットされていることを示します。

多重露光の最後の露光の前に、多重露光スイッチを "SE" (単一露光) に戻し、カメラボディに向かって押し込みます。

最後の露光の後でフィルム送りが正常に作動します。

ご注意

4560 マガジン使用時は "ME" 設定は無効です。フィルム送りはマガジン側でコントロールされます。

詳しくはマガジンの取扱説明書をご参照ください。

多重露出機能は "フィルム送り" カスタム機能 ("SF trAn") にあります。"カスタム機能" の項をご覧ください。この場合、フィルム送りは電氣的に切り離され、ミラーは最初の露光後に上昇位置で固定されます。従って、ファインダーの観察、露出の再測定、ピント合わせはできません。一方、この形の多重露光はより早い連続シャッターが可能です。これはマスターウェアで調整することができます。多重露光を終了するには、最後のシャッター作動前であればカスタム機能スイッチ [31] を OFF にし、最後のシャッター作動後であればミラーアップボタン [73] を押します。

ご注意

後のケースの場合、連続撮影はできません。メインスイッチ [1] が "C" に設定されていても、カメラは "S" に設定されているように動作します。

連続撮影にはマスターウェアが必要です。この場合、最大 10 コマまでの連続写真が、各コマ間最小 10ms の遅延時間で可能となります。

※重要：

多重露光の連続撮影中フィルムマガジンは交換できません。



フレームカウンター

フレームカウンター窓 [51] は次に撮影するコマの番号を表示します。マガジンバック [35] を開けるとカウンターは "S" に戻ります。

<フレームカウンターその他の表示>

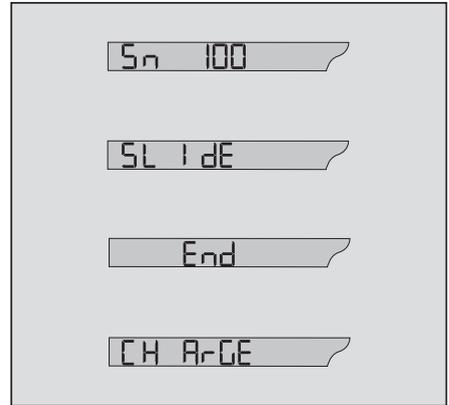
- "S" :
フィルムが入っていないか、あるいはフィルムが送られていない。
- 赤い矢印 :
フィルムが最初のコマまで送られていない。
- 窓全面が赤 :
裏紙の最後またはフィルムが巻取られている。

ご注意

この表示はマガジンのフレームカウンターの表示と異なる場合があります。" カスタム機能 " をご参照ください。

4560 マガジンを装着している場合、カメラは常にフレームカウンターの数字を表示します。この場合、マガジンのフレームカウンターと一致します。さらにマガジンが横位置か縦位置かも表示します。

VIEWFINDER DISPLAY



その他のファインダーディスプレイ

ファインダー内の絞り・シャッター速度表示区域は追加的情報にも使用されます。

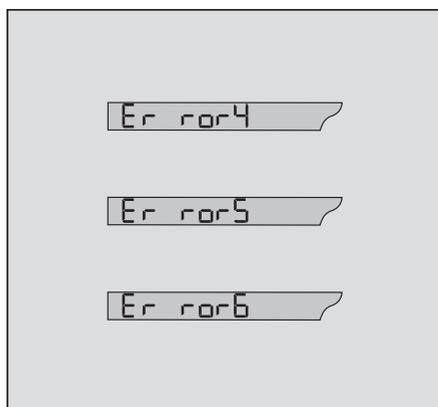
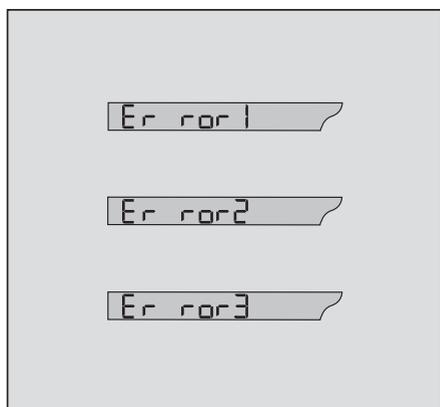
- ・カメラの電源が入っていて、フィルム感度のセットを変更した時、絞りの位置に "Sn" (sensitivity=感度) が現れ、シャッター速度の位置には対応するISO値が現れます。

- ・もし、フィルムマガジンのレリーズロックがかかっている場合 (マガジンのスライド蓋が開まっているか、開き切っていない時) は "Slide" が現れます。フィルムが最後のフレームまで巻き取られると "End" が現れます。

- ・電池が空の場合は、すぐ充電するように "CHARGE" が現れます。

- ・ファインダーディスプレイ [12] のバックライトの明るさは周辺の明るさに合わせ自動的に調整されます (プログラム)。

- ・使い方によってファインダーディスプレイが邪魔になる場合には消すこともできます。その方法は "Display" カスタム機能 ("SF diSP") を呼び出し、カスタム機能スイッチ [31] をつけてファインダーディスプレイを消します。ファインダーディスプレイの明るさは MasterWare で調整できます。



エラー・マネージメント

6008AF は最新式の自己診断とエラー管理システムを備えています。それにより誤動作の可能性を察知し、エラーメッセージを表示します。

以下のメッセージが現れることがあります。

- "Error 1"：ミラーボックスの許容し難い光線洩れ。マガジンかレンズが取り付けられていない、シャッター制御不具合。
- "Error 2"：シャッターか絞りの誤作動。このメッセージが頻繁に現れる時はレンズをチェックする。この表示はレンズを取り付けてない時にも現れる。
- "Error 3"：AF 電子関連の誤作動。このメッセージが頻繁に現れる時はレンズをチェックする。
- "Error 4"：マガジン 4560 の誤作動。フィルムが装填されていないか、フィルム巻上げに問題がある。

- "Error 5"：ミラードライブの誤作動。このメッセージが頻繁に現れる時はカメラをチェックする必要あり。

- "Error 6"：AF 制御の欠陥。このメッセージが頻繁に現れる時はカメラをチェックする必要あり。

注意："Error 3"、"Error 6" の場合、カメラは MF カメラのように反応します。このエラーはカメラのスイッチを一旦切ってから入れ直すと同様に修復されることがあります。それでもメッセージが現れる場合は、関連部分のチェックが必要です。

"Error 8"、"Error 9" はデジタルバック使用の時に現れます。これらの誤作動はカメラの問題ではなくデジタルバック側の問題です。

種々のデフォルト・セッティング

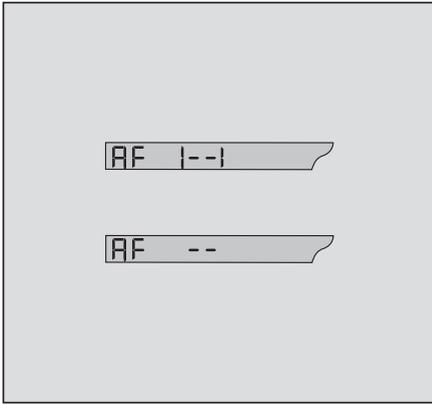
6008AF は下記のセッティングを行うメニューがあります：

- ・ AF モード選択：AF1- -1" (3 フォーカスエリア使用) または "AF- -" (スポット AF)。
- ・ 前シンクロ / 後シンクロ："1 Syn"、"2 Syn"。
- ・ オートブラケットモード選択："1 brt"、"2 brt"。
- ・ 6 x 6 マガジン用フレームカウンターの起動と調整："count"。
- ・ カメラ："rESet"。

カスタム機能スイッチ [31] を "norm" に合わせ、メニューダイヤル [44] を "M" に合わせてメニューを選択します。

作動中のセッティングは全てファインダーディスプレイ [12] に点滅せずに表示され、オプション機能は点滅表示されます。メニューの項目選択にはメモリースイッチ [27] を使用し、選択した機能を起動するにはリリースボタン [20] または [24] を使用します。

セッティングを取り消すには、測光モード切替 / メニューダイヤル [44] を "M" 位置からずらしません。



3フォーカスエリア作動（デフォルト）

上記のようにメニューダイヤル [44] でメニューを選択します。

デフォルト・セッティングでは、いつも最後に行った選択が最初に表示されます。

図では "AF 1 -- 1" (3 エリアモード) です。これを保存したければ、メニューダイヤル [44] を回し戻してメニューをそのままにします。

もしメニューが "AF --" だったら、メモリースイッチ [27] を一度押し、"AF 1 -- 1" を点滅させます。リリースボタン [20] または [24] をいっぱいに押し、選択を決定すると点滅が止まります。

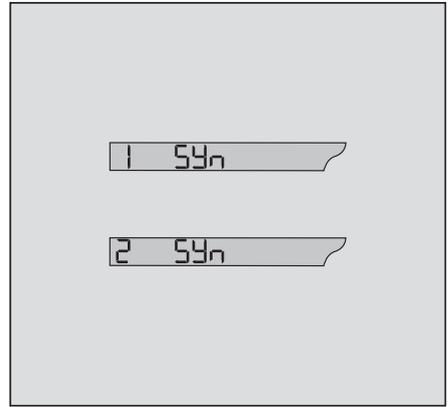
最後に測光モード切替 / メニューダイヤル [44] を回して "M" 位置から外します。

スポットAF

前記の方法でメニューを選択します。

ファインダーディスプレイ [12] に "AF --" が現れて点滅するまでメモリースイッチ [27] を押します。リリースボタン [20] または [24] をいっばいに押し、選択を決定すると、点滅は止まります。最後に測光モード切替 / メニューダイヤル [44] を回して "M" 位置から外します。

SELECTING LEADING OR TRAILING SYNSC



前シンクロの選択（デフォルト設定）

メニューダイヤル [44] でメニューを選択します。測光 / メモリースイッチ [27] を "1 Syn" の点滅表示になるまで押します。"1 Syn" 表示が連続表示されている場合は、すでにこのモードに設定されています。メニューダイヤルをリセットしてメニューを終了します。

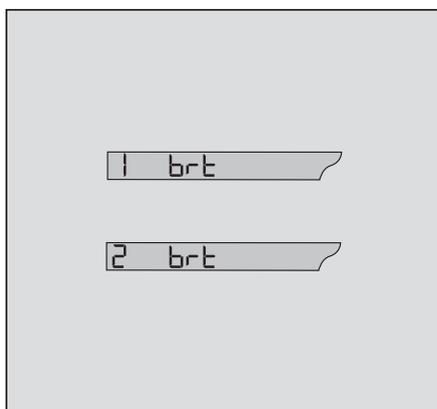
"1 Syn" が点滅表示している場合は、これを確定するためにシャッターリリースボタン [20] または [24] を一杯押します。点滅が止まります。メニューダイヤルを "M" 位置に戻します。

後シンクロの選択

メニューダイヤル [44] でメニューを選択します。測光 / メモリースイッチ [27] を "2 Syn" の点滅表示になるまで押します。"2 Syn" 表示が連続表示されている場合は、すでにこのモードに設定されています。メニューダイヤルをリセットしてメニューを終了します。

"2 Syn" が点滅表示している場合は、これを確定するためにシャッターリリースボタン [20] または [24] を一杯押します。点滅が止まります。メニューダイヤルを "M" 位置に戻します。

SELECTING THE BRACKETING MODE



第1ブラケットティングモードの選択

(デフォルトは± 2/3EV、3 コマ)

メニューダイヤル [44] でメニューを選択します。

測光 / メモリースイッチ [27] を "1 brt" の点滅表示になるまで押します。"1 brt" 表示が連続表示されている場合は、すでにこのモードに設定されています。メニューダイヤルをリセットしてメニューを終了します。

"1 brt" が点滅表示している場合は、これを確定するためにシャッターレリーズボタン [20] または [24] を一杯押します。点滅が止まります。メニューダイヤルを "M" 位置に戻します。

第2ブラケットティングモードの選択

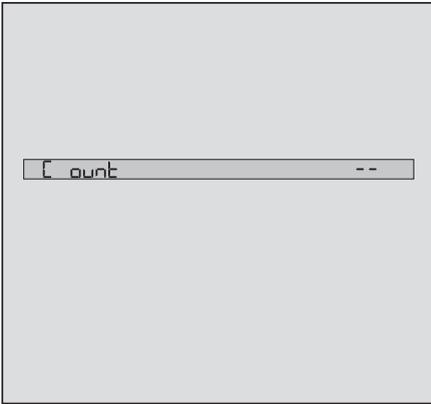
(デフォルトは± 1/3EV、3 コマ)

メニューダイヤル [44] でメニューを選択します。

測光 / メモリースイッチ [27] を "2 brt" の点滅表示になるまで押します。"2 brt" 表示が連続表示されている場合は、すでにこのモードに設定されています。メニューダイヤルをリセットしてメニューを終了します。

"2 brt" が点滅表示している場合は、これを確定するためにシャッターレリーズボタン [20] または [24] を一杯押します。点滅が止まります。メニューダイヤルを "M" 位置に戻します。

FRAME COUNTER



標準フィルムマガジン用の フレームカウンターの設定

メニューダイヤル [44] でメニューを選択します。測光 / メモリースイッチ [27] を押して "Count" を選択し、シャッターリリースボタン [20] または [24] を押して確定します。

"Count" とフレームカウンターアイコン "--" の点滅が止まります。"--" はフレームカウンターが選択されていない状態です。測光 / メモリースイッチでフレームカウンターを "00" から "24" の間で設定します。

確定するためにシャッターリリースボタンを一杯押します。次のメニューの "rESEt" が表示されます。メニューダイヤルをリセットしてメニューを終了します。

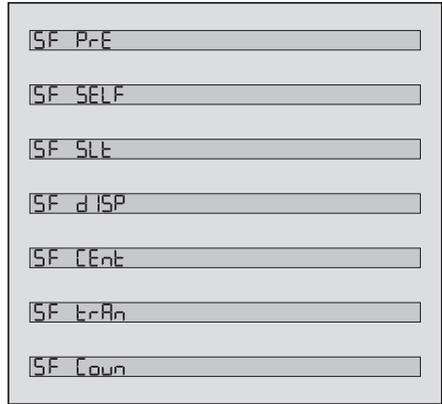
選択したフレームの枚数が表示されます。

リセット

カメラの設定をデフォルトに戻します。まずメニューダイヤル [44] でメニューを選択します。測光 / メモリースイッチ [27] を "rESEt" の点滅表示になるまで押します。シャッターリリースボタン [20] または [24] を押して "rESEt" メニューを起動します。

表示の点滅が止まります。カメラをデフォルト設定に戻すには、確認のためにシャッターリリースボタンを一杯押します。メニューダイヤルを "M" 位置に戻します。

リセット機能を不用意に起動してまだ実行していない場合 ("rESEt" 表示が点滅していない)、測光 / メモリースイッチを押すかメニューダイヤルをリセットして中止します。



カスタム機能

ローライフレックス 6008AFには数多くのカスタム機能が搭載されています。

- >> プリフラッシュ、表示 "SF PrE"
- >> セルフタイマー、表示 "SF SELF"
- >> サイレント動作、表示 "SF SLt"
- >> ディスプレイ、表示 "SF PrE"
- >> 中央重点、表示 "SF CEnt"
- >> フィルム送り、表示 "SF trRn"
- >> 連続バースト制限、表示 "SF Coun"

これらの機能はカスタム機能スイッチ [31] で呼び出せ、設定／解除がこのスイッチでできます。絞り表示の場所に表示される "SF" は、カスタム機能を表します。

カスタム機能スイッチでカスタム機能を設定する

カスタム機能スイッチを "sf" に設定します。メニューダイヤル [44] を "m" にセットしてメニューを選択します。

最後に使用したカスタム機能が表示されます。測光/メモリースイッチ [27] を目的の機能が点滅表示になるまで押します。シャッターリリースボタン [20] または [24] を一杯押して選択を確定、保存します。メニューダイヤルを "M" 位置に戻します。

ご注意使用しているカスタム機能は常時表示（点滅なし）され、使用可能なものは点滅表示されます。選択したカスタム機能をすぐに使う必要がない場合は、カスタム機能スイッチを "norm" の位置に戻します。



フラッシュ撮影

ローライフレックス 6008AF は 1/1000 秒 (PQ レンズ/EL レンズ使用の場合は 1/500 秒) までのすべてのシャッタースピードに対し、ストロボが同調します。

フラッシュユニットはホットシュー [75]、またはシンクロソケット [74] に接続して使用します。この 2 つのシンクロ接続点は並列に接続されています。以下のフラッシュモードが使用できます。

1. マニュアルフラッシュモード：
被写体との距離に応じて絞りを設定した場合
2. 専用オートフラッシュモード (TTL 調光)：
別売のフラッシュアダプター「SCA-3562」、
「SCA-356」およびメッツ社 (Metz) 製などフラッシュユニットを使用した場合
3. TTL フラッシュ測光モード：
スタジオ用フラッシュユニット、マニュアルフラッシュを使用した場合

ご注意
スタジオ用のストロボは、コンパクトタイプやグリップタイプのストロボと比較してレスポンスが遅く、フラッシュの持続時間も長いのが普通です。

1/250 秒より高速のシャッタースピードではフラッシュの時間が遅れてシャッターの開いているタイミングを越えることがあります。フラッシュの取扱い説明書をよくお読みください。

前シンクロ／後シンクロの設定と シンクロスピード

前シンクロフラッシュか後シンクロフラッシュかは、初期設定変更（前項を参照してください）、またはマスターウェアのいずれかで選択することができます。

>> "1 Syn" を選択：フラッシュはシャッターが開いた直後、露光の最初に発光します。

>> "2 Syn" を選択：フラッシュはシャッターが閉じる 3ms 前、露光の最後に発光します。

レンズシャッターを採用しているのもので、すべてのシャッタースピードにおいてフラッシュが使用できます。1/250 秒より早いシャッタースピードでは、前フラッシュ／後フラッシュの差はありません。

SCA アダプターを使わない マニュアルフラッシュコントロール

フラッシュをホットシュー [75]、またはシンクロナミナル [74] に接続します。この場合、カメラはフラッシュを認識せず、フラッシュが接続されていない時と同じ動作をします。フラッシュが要求する絞りの値をレンズに設定してください。

コンピュータ制御フラッシュはセンサーを内蔵しており、フラッシュに設定した絞り値によって自動的に出力を制御します。この場合同じ絞り値をカメラにもセットします。シンプルなフラッシュは撮影距離に応じてテーブルを参照して絞り値を変える必要があります。フラッシュ付属の説明書を参照してください。

マニュアルフラッシュコントロールで、プリフラッシュモードを使って必要な絞りを見つけることも可能です。"プリフラッシュモード"の項を参照してください。



Rollei SCA-3562 (または SCA-356) 専用フラッシュアダプターを使う フラッシュ撮影

専用のフラッシュユニットと Rollei SCA-3562 (または SCA-356) 専用フラッシュアダプターを併用すると、カメラの TTL フラッシュ測光機能が使えます。カメラ内蔵のセンサーがフィルム面の反射光を測定し、フィルム感度、環境光を考慮してフラッシュの出力を制御します。結果として、ISO25 から ISO1600 の範囲において、最適な露出を得ることができます。

正しいフラッシュ露光を行なうために、SCA-356 フラッシュアダプターは常に ISO 100 に設定しておきます。

フラッシュ出力が不足の場合、カメラのファインダーディスプレイに "Lo" が数秒間表示されません。

ファインダー内、シャッターレリーズのすぐ後にあるフラッシュアイコンが点滅している時はフラッシュが充電中です。点滅が止まったら発光可能です。

SCA-3562 アダプターは次のデータをカメラとフラッシュの間で伝達することができます。

- >> ズームリフレクタコントロールのための、AF レンズの焦点距離 (技術的理由により、焦点距離は 35mm カメラ相当に変換して表示)
- >> センサーオートフラッシュのためのレンズ絞りとフィルム感度
- >> 対応フラッシュユニットでのフラッシュ露光補正
- >> AF プリフラッシュコントロール

ご注意

SCA-356 アダプター使用の場合、フラッシュが十分な光量で発光したかどうかを確認することはできません。

TTL フラッシュ測光のフィルム感度上限 (ISO1600) を越えた場合、フラッシュアイコンとフィルム感度表示が警告のために点滅します。

低照度で SCA アダプターを使用しているオートフラッシュ

暗すぎる場合は、より大きなフラッシュ絞り値あるいは基本シンクロスピードより遅いシャッターが、正しい露出のために要求されます。もし十分な光がある場合は、システムは "SCA アダプターでのオートフィルフラッシュ" で説明されているように反応します。

プログラム AE でのフラッシュ撮影

光量が低く、基本シンクロスピードである 1/60 秒（デフォルト）でフラッシュ絞り値（次の表を参照）を越えてしまう場合には、カメラは自動的にフラッシュを作動させて露出不足を防ぎます。

絞り優先 AE でのフラッシュ撮影

環境光が暗く、設定された絞り値と基本シンクロスピードである 1/60 秒で露出不足となる場合は、カメラは自動的にフラッシュを作動させて露出不足を防ぎます。

ご注意

フラッシュ露出はフラッシュユニットのその時々レスポンスの影響を受けるため、浅い絞り値は距離が遠い場合のみに使用するようしてください。

シャッター優先 AE でのフラッシュ撮影

希望するシャッタースピードを選択します。光量が低い場合（次の表を参照）は、カメラはまず使える絞りの範囲で適正露出を試みます。

適正露出のためにさらに追加の光が必要な場合、フラッシュを使用します。絞り値はフィルム感度との関連で決まり、下の表の値からスタートします。

下の表の値で不十分な場合、ディスプレイが点滅して警告します。

ISO感度	25	50	100	200	400	800	1600
絞り	F2.8	F3.5	F4.0	F5.0	F5.6	F7.1	F8

SCAアダプターのオートフィルフラッシュ

光量が十分でフラッシュの必要がない場合、フラッシュは発光せず、これはフラッシュアイコンが表示されないことで確認されます。

フィルインフラッシュとして使いたい場合、次に述べる方法の一つを使用します。（フラッシュの使用説明書も参照してください。）

FLASH PHOTOGRAPHY



補正フィルフラッシュ

このフィルフラッシュモードを使用するには、露出補正ダイヤル [43] を "comp" の範囲に設定します。

これにより、環境光の効果を設定された数字のバリューだけ減らし、その分をフラッシュが補って適正な露出にします。

< 例 >

-1 に設定する。環境光での露出は 1EV 分アンダーになる。このアンダー分をフラッシュが補う。

これは、フラッシュで背景に強い効果を出したい場合（インテリアなど）に有効です。

追加フィルフラッシュ

このフィルフラッシュモードを使用するには、露出補正ダイヤル [43] を "add" の範囲に設定します。

この補正値は環境光での露出には影響しません。フラッシュでの追加の露光が補正値だけ被写体を明るくします。

< 例 >

+1 に設定する。被写体の周囲は自然に描写され、メインの被写体が 1EV 分明るく描写される。

このフィルフラッシュモードは、背景に影響を与えず、全景だけを明るく表現したい場合に有効です。（アウトドアなど）

フラッシュ露光補正機能付き フラッシュでのオートフィルフラッシュ (SCA-3562 アダプターのみ)

Rolleiflex 6008 AF はそのようなフラッシュユニットを自動的に判別します。

これらのユニットは、フラッシュ出力と環境光の強さのバランスの比を変えてコントロールすることができます。

露出補正ダイヤル [43] はカメラの露出計、つまり環境光の露出にのみ影響を与えます。一方、フラッシュユニットの露出補正スイッチは、フラッシュ出力のみに影響します。

<例>

十分な光がある状態で、二つの露出補正スイッチがゼロ設定の場合、フラッシュなしで通常のショットが行なわれます。カメラの露出補正ダイヤル [43] は、設定した値だけ露出をシフトさせることができます。フラッシュユニットの露出補正スイッチがゼロに設定されている限りフラッシュは動作しません。

フラッシュユニットの露出補正スイッチをプラスの値にセットすると、セットした値を満足す

る光量のフラッシュ光が追加されます。

フラッシュユニットの露出補正スイッチをマイナスに設定するのは、フラッシュでアンダー露出を狙う場合に意味があります。

ご注意

ゼロに近い小さなフラッシュ露光補正は TTL 測光範囲オーバーとなることがあります。(フラッシュアイコンとライトバランスが点滅) この場合は、より大きなフラッシュ露光補正值を選択するか、ISO 100-800 のフィルムを使用してください。オートフィルフラッシュ機能は、フィルム感度設定のできないフィルムホルダーでは使用できません。

マニュアルフラッシュ制御

三つの自動露出モードのどれも選択していない場合（シャッタースピードダイヤル [23] も絞りリング [69] も "A" にセットしていない状態）、露出は環境光とフラッシュ出力がそれぞれ独自に決定されます。環境光のみによる露光は "マニュアル露出" に解説されているように行なわれます。フラッシュ出力は TTL 測光により制御されます。露出補正が行なわれない場合、このケースでは被写体は 1EV 明るく描写されます。環境光による露光を変えるには絞り、あるいはシャッタースピードの設定を変更します。露出補正のないフラッシュでは、フラッシュ出力は露出補正ダイヤル [43] の設定で変更ことができ、この設定は TTL フラッシュ測光のみに影響します。

フラッシュ露光補正を備えたフラッシュの場合はそれに内蔵された露出補正ダイヤルによってフラッシュ出力を変えます。この時はカメラ側の露出補正は環境光のみに影響します。

SCA アダプターを使用時の フラッシュブラケットティング

このモードではブラケットティングに使われる露光補正はフラッシュ出力の変更のみで行なわれます。このモードの詳細については"ブラケットティング"の項目をご参照ください。

TTL フラッシュ測光の範囲を逸脱しないために、フィルム感度と露出補正值の組み合わせが適合している必要があります。

マイナス補正ができる最高設定感度は ISO 1600 です。また、プラス補正のできる最低設定感度は ISO 25 です。フィルム感度設定範囲は、測定範囲から露出補正值の分だけ狭くなります。

ご注意

このモードでは露光範囲は露出補正ダイヤル [43] では変更できません。フィルムフラッシュモードはそのままです。

プリフラッシュ (マニュアル絞りコントロール)

まずプリフラッシュカスタム機能 ("SF PrE") をカスタム機能スイッチ [31] に与え、スイッチを ON にします。"カスタム機能" の項をご参照ください。プリフラッシュモードは反射ミラーに組み込まれたスポットセンサーによって行なわれます。このため、測光する被写体はピントガラスの中央に位置することが正しい測光のために重要です。

シャッターレリーズボタン [20] または [24] を押すと設定絞りに絞り込まれ、露光とフィルム送りをせずにシャッター作動の 1 サイクルを行ないます。ライトバランスが測定された露出値を表示します。絞りあるいはフラッシュ出力を変更して光がバランスする、すなわち大きな中央の線だけが見えるようになるまでプリフラッシュを繰り返します。

測定値が正しい露出値から 1EV 以下の差である場合 (ライトバランスが点滅しない)、正しい露出は再測定をしなくても絞りを変えることで決定できます。もしその差が 1EV 以上ある場合は測定し直す必要があります。これは測定範囲を越えていて、次の調整ができないためです。最後にカスタム機能スイッチ [31] でカスタム機能を終了します。

正しい測光を行なうために、ピントガラスに迷走光が入り込まないように注意してください。

ご注意

TTL フラッシュ測光と異なり、プリフラッシュモードではフィルム感度設定範囲は ISO 25-800 となり、自動露出モードは使えません。この場合、"no Auto" が表示されます。

低温下での撮影

-10。C 以下の低温時にはバッテリーをカメラから外し、撮影の直前まで身につけて保温をすることをおすすめします。

オプションの外部電源ユニットは特に有用なアクセサリーです。極端に厳しい状況下（極地、冷凍庫内、低温実験室など）ではカメラ本体も低温から保護することが必要になります。

極端なライティング条件での撮影

カメラに備えられた自動露出測定および制御システムはすべての交換式ファインダー、フィルター、接写リング、リバースアダプター、ペローズ装置を使った場合もフルに機能します。

露出は常にレンズを通過して光で精密に測定されます。つまり、撮影の画角も、フィルターの係数と同じように考慮されて測定されるのです。カメラに備えられた三つの測光モードが、写真撮影する上で考えられるどんなライティング条件でも理想的に光を測定します。

スポット測光

強い逆光の場合や被写体の背景が明るい、もしくは暗い場合、スポット測光は選んだ被写体の一部分を測光します。標準スクリーンのスプリットイメージサークルが測光部分を表します。この部分は全画面の1%しかカバーしないので、極めて限定された画像に対して精密な測光を行うことができます。

被写体に関連する部分がこの画面中央部の外にある場合、AEロックによって測光値を保持し、フレーミングを変更してから撮影します。

マルチスポット測光

この方法では、被写体の5ヶ所（ハイライトまたはシャドウ）まで別個にスポット測光します。カメラのマイクロプロセッサによってそれらの値の中間値が計算され、適正露出を決定します。

露出補正

自動露出モードを使う時に非常に役立つ機能です。補正は 1/3 ステップで行なうことができ、クリックストップを備えています。

これにより極めて精密な露出制御を行なうことができます。

オートブラケットティング

あらゆる条件を考慮した上でも、なお適正な露出を決めかねるという場合、このオートブラケットティングモードが役に立ちます。これは自動的に異なった露出補正をしながら複数枚の撮影を行なうものです。露出補正とブラケットティングを組み合わせることで非常に精密な露出制御が可能になります。

マニュアル露光時にはシャッタースピードが変化してブラケットティングを行ないません。デフォルト設定ではブラケットティングのステップは 2/3EV です。初期設定変更で 1/3EV に設定することもできます。さらに細かい設定はマスターウェアで行なうことができます。

標準反射板を使つての測光

標準反射板（グレーカード）を使用し、その使用説明書に従つて露出の測定を行なう方法は、難しいライティング条件の場合におすすめできません。

これにより、中間調の最適な再現のために最良の平均値を得ることができるのです。

クローズアップ測光

これも難しいライティング条件の場合に有効な方法です。被写体をクローズアップして露出を測定し、AEをロックします。

それから構図をやり直して撮影を行ないます。

被写体のコントラスト

フィルムのグラデーションのカーブが急であればあるほど写真のコントラストは高くなります。

強すぎるコントラストを低減するには、フィルフラッシュを使う、より柔らかいライティングを行なう、異なつたタイプのフィルムを使用する、現像条件で補正する、あるいは撮影のアンクル、カメラ位置を変える、などの方法があります。

これらを行なつてもコントラストを効果的に下げることができない場合、作画意図によつてどこに最も重点をおくか、すなわちハイライト、シャドウ、中間調のどれを重視するかを決めることとなります。マルチスポット測光はこのような条件の時に役立ちます。



接写用アクセサリー

●ベローズユニット

フォーカシングラック付、ラック&ピニオン機構、クランピングネジ、繰り出し目盛り、三脚取付用ネジ穴 1/4 インチを装備しています。すべての自動レンズ機構にリンクできます。両面はバヨネットマウント、繰り出し量は67mmから204mmです。

●エクステンション・チューブ

エクステンション・チューブ 9、17、34、67mmの4種類が用意されていて、すべて自動機構付きです。単体でも、ベローズユニットまたはレトロアダプターと組み合わせても使用可能です。



●ズームエクステンション・チューブ (22-68mm)

精巧なヘリコイド式のズームエクステンション・チューブですので28-68mmの範囲で自由に設定でき、クローズアップ撮影に最適です。主にツアイスの40-250mmレンズ用ですがレトロアダプターとの併用も可能です。

PRACTICAL HINTS



●レトロアダプター

このアダプターを使用すると、6008AFのクローズアップ範囲が広がります。より優れたクローズアップ撮影のために、50mm-120mmのレンズをリバースマウントする事ができますし、すべての自動レンズ機構にリンクできます。ベローズユニットを併用した場合、例えばリバースマウントの「プラナー 80mmF2.8」で撮影すると1.8倍から3.5倍のマクロ撮影が可能になります。

ご注意

技術的理由により、オートフォーカスモジュールはレンズの有効なF値がF5.6以上（F5.6より明るい）でないと作動しません。テレコンバーターや接写用のアクセサリーを使用すると、容易にこの条件を満たさなくなりますのでご注意ください。

クイックリリース

スポーツなど動きの激しい被写体、動物などの撮影では大事な瞬間をとらえるために迅速な撮影が最も重要です。シャッターを押してから露光するまでの時間差をなくすために、事前に露出を測定し、ミラーアップをしておきます。

●クイックリリースを作動させるには、測光スイッチ [27] を押しておき、ミラーアップボタン [73] を作動させます。これにより測光値が記憶されミラーが上がり撮影準備ができます。シャッターリリースを押すと、シャッターは PQ レンズで 3-4m/s 以内、PQS レンズで 2m/s で開きます。クイックリリース作動中はディスプレイに左の表示が現れます。

●クイックリリースを作動中に絞込みボタン [32] を押すとオートクイックリリースになります。キャンセルするにはもう一度、絞込みボタンを押します。オートクイックリリース作動中はシャッターを切った後に、またクイックリリース状態になります。

カメラのお手入れ

ローライフレックス 6008AF を長くご愛用いただくために、以下のお手入れをお薦めします。
カメラの清掃、保管は下記の方法に従って下さい。

柔らかいラクダの毛ブラシまたはブロワーでまずホコリを取ります。外表面を掃除する時は息を吹きかけ、レンズクリーニング用ペーパーで拭きます。静電気が帯びるのを防ぐため息を吹き掛けた後水分が蒸発して乾くまでそのままにしておきます。

フォーカシングスクリーンの掃除には細心の注意が必要です。スクリーンの上面と下面とはガラザラしていますから、ブロワー以外のものは使わないで下さい。また汚れや指紋が付かないように注意して下さい。

●蒸気や湿気の多い状況下に、長くカメラを置かないようにして下さい。

●熱帯または亜熱帯地域の高湿度の状態に置くと、金属部分が錆びたり、ガラスに虫が付いたりします。

●できるだけ頻繁に新鮮な空気と日光にあてて、カメラを乾かすようにして下さい。

●フィルムガイドの表面は常に清潔に保って下さい。(フィルムから剥がれたゼラチンの粒子は虫にとって格好の温床となります)

●長期間カメラを使わない場合はバッテリーを外して、密封容器にシリカゲルと一緒にに入れて保管して下さい。

●カメラに汚れが付かないように、特にご注意ください。

便利なアクセサリ

ローライフレックス 6008AF にはその機能を拡大するためのアクセサリが用意されています。これらは特殊な用途に必要なものや、使い方をさらに便利にするものなどが豊富に取り揃えられています。

※ SRC120、MRC120、FM1、ローライフレックス 6006 専用アクセサリはご使用になれませんのでご注意下さい。

交換レンズ

ローライフレックス 6000 シリーズ用の交換レンズ群は、クオリティの高い写真を撮影するためにカメラマンに余裕を与えてくれます。

PQ レンズ・PQS レンズ (AF 機能付きレンズも含む)、EL-M レンズは 6008AF のすべての測光モードに対応しています。(SLX6006/6002 のレンズを 6008AF に使用した場合、絞り込み測光となるのでご注意下さい)

特に AF レンズはオートフォーカス機能を搭載した 6008AF の優れた特性を最大まで活用できる優れたレンズです。

すべてのレンズはローライ独自のダイレクトモータードライブ技術により作動します。レンズには絞りを駆動させるためと、シャッターを作動させるために 2 つのモーターを内蔵しています。シャッタースピードは正確でしかもタイムラグもなく、最長 30 秒から最速 1/1000 秒 (PQS レンズ) または 1/500 秒 (PQ レンズ / EL-M レンズ) まで可能です。カメラとレンズの接点はカバーで守られています。また電気接点なので機械的に動く部分がなく、磨耗することはありません。

FURTHER OPTIONAL ACCESSORIES

テレコンバータ

焦点距離を 1.4 倍にするハイグレードな "テレコンバータ 1.4 × HFT" と、焦点距離を 2 倍にする標準レンズ、望遠レンズ、ズームレンズと幅広く使用できる "テレコンバータ 2 × HFT" の 2 種類を用意しています。

精密な光学機器によりレンズの性能を損なわずに使用できます。

※ "テレコンバータ 1.4 × HFT" はクセノタール 80mm 以外の標準レンズおよび広角レンズには使用できません。

交換式フィルムマガジン

6 × 6cm 判のフィルムマガジン 6000 は 120 / 220 タイプの 2 種類を用意。一体型ラミネートスライドの採用で素早く、安全にフィルム交換が可能です。

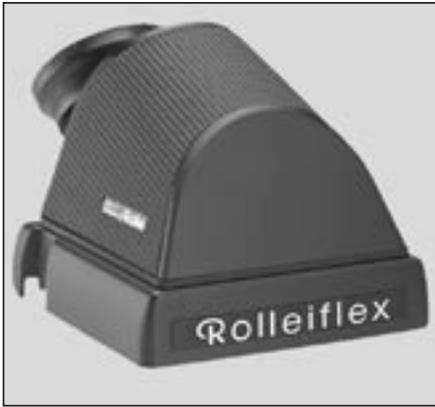
さらに 4560 フィルムマガジンはカメラを動かさずにたて位置・よこ位置をスムーズに差し換えることができます。

交換式ファインダー

ローライフレックス 6000 シリーズ用のファインダーシステムは、3 種類の交換式ファインダーと 4 種類のフォーカシングスクリーンからなっています。

標準ファインダーフードは、ウエストレベルファインダーで視度補正レンズは +2.5 ~ -4.5 まで用意されています。

FURTHER OPTIONAL ACCESSORIES



プリズムファインダー 45° とテレスコピックファインダー 90° の2つのアイレベルファインダーは、上下左右とも正像でのビューイングが可能です。

またファインダースクリーン上部のディスプレイ表示はそのまま正像で読む事ができます。

接眼部は 90° ごとに 4 方向に回転できるのでビューポイントが難しい位置でも、簡単にビューイングできます。45° ファインダーの視度補正レンズは +2.5 から -4.5 まで用意されています。90° テレスコピックファインダーは視度補正レンズを内蔵しています。

さらにローライ 6X6 マグニファイヤーと 6008 用ベースアタッチメントを組み合わせると最高のマグニファイニングフードが出来上がります。最高の補正機能をもった 3 倍マグニファイヤーですので、被写体範囲全体にわたって正確な色再現とシャープネスが得られます。

ルーペとしても高性能で、6X6 のスライド、ネガ、プリント、マウント付 35mm スライド、マウント無 35mm スライドをフルサイズでビューイングする事ができます。

フォーカシングスクリーン

あらゆる場面において明るく、正確なビューイングを得るために、ローライフレックス 6000 シリーズには 4 種類のフォーカシングスクリーンを用意しています。

スタンダード・ブライトマットスクリーン
中央スプリットイメージ、マイクロプリズムリング付きの標準タイプのフォーカシングスクリーンです。スプリットイメージによって垂直線上のフォーカシングを正確に行うことができ、その周囲はマイクロプリズムとなっています。全体はマットスクリーンですので、画像エリア全体にわたってシャープなフォーカシングができます。

ブライトマットスクリーン
フルエリアのフォーカシングに適したマイクロファインフォーカシングスクリーンです。開放値が比較的暗いレンズに適しており、被写界深度のプレビューにも効果的です。各ラインは 4.5 × 6cm サイズの縦位置横位置の目安になります。

ハイ-Dスクリーン
最高に正確なフォーカシングのために、中央にスプリットイメージを付けたマイクロファインフォーカシングスクリーンです。各ラインは 4.5 × 6cm サイズの縦位置横位置の目安になります。撮影後に、4.5 × 6cm のフレーミングで画像境界線を決定しなければならないような撮影に最適です。

ブライトマットスクリーン/マイクロプリズム
素早く撮影を行うのに適したフォーカシングスクリーンです画像ディテール全体にわたってちらつきをなくすので、光量不足でも正確なフォーカシングができます。



蛇腹レンズフード/タイプVI

逆光やサイドからの光など、不要な光の侵入を防止する、伸長蛇腹式レンズフードです。焦点距離 80mm と 120-250mm の指示目盛付き。120-250mm レンズ用のマスクも付いています。後ろポケットには、75 × 75mm のシートフィルターを入れることができます。



バッテリー延長ケーブル

このコネクタを使用すればバッテリーを本体から離して使用することができるので、寒冷地での撮影にも安心して電源を得ることができます。

エクステンションケーブルとバッテリー、およびカメラのバッテリーコンパートにプラグ接続できるコネクタで構成されています。

FURTHER OPTIONAL ACCESSORIES



ローライ外部電源ユニット

アウトドアの撮影などで、バッテリー切れが起こった場合に市販の乾電池を電源に使用することができます。

最大で(120タイプロールフィルムの場合)600カット*の撮影が可能に。220gと軽量、そしてコンパクトなので非常用のバッテリーとして常に携帯しておく事ができます。

寒冷地など、電源の消耗が激しい環境下での撮影に非常に便利です。

電池はCR123A × 5本使用。

※ご注意

120 フィルムを連続使用した場合の数値です。
電源を ON の状態で待機していると撮影枚数は減少します。



フラッシュアダプターSCA3562

SCA3562は「SCA 3000 システム」を使用する、ストロボを自動ストロボ機能にするアダプターです。

カメラのホットシューに差し込むだけで、カメラとストロボユニットが連動します。オートフラッシュ調整に必要なデータが送信され、最高のフラッシュ撮影を行うことができます。

TROUBLESHOOTING

トラブルシューティング

問題	原因
カメラが動かない	●カメラのスイッチが入っていない ●ニッカド電池が入っていないか、電池が空になっている
カメラが作動せず、ディスプレイに "S Li dE" 表示が出る	●マガジンの引蓋グリップが底部のストップに合っていない ●レンズが装着されていない
フィルムがフレーム 1 まで進まない	●フィルムがカールしていて、フィルムリーダーのループから外れている ●6 x 6 マガジンのフィルムステージが挿入されていない
絞りがディスプレイに表示しない	●PQ レンズが装着されていない
ファインダーディスプレイが表示しない	●カスタム機能スイッチが "norm" にセットされている
PQ レンズを装着したらディスプレイに "----" 表示が出る	●多重露出がバルブかタイムにセットされている
旧型レンズを装着したらディスプレイに "----" 表示が出る	●マルチスポット測光が選択されている
どのレンズでも "no Auto" 表示が出る	●シャッター優先 AE でバルブかタイムにセットされている ●プリフラッシュとオート露出モードにセットされている
旧型レンズだと "no Auto" 表示が出る	●シャッター優先 AE が、マルチスポット測光を選択している
PQ レンズ使用オートまたはマニュアルモードで "88 8888" 表示が出る	●EV が 0 またはそれ以下
旧型レンズ使用で "88 8888" 表示が出る	●EV が 5 またはそれ以下
PQ レンズ使用で絞り表示が点滅する	●F ストップの範囲が不十分
PQ レンズ、旧型レンズ使用で、シャッター速度表示が点滅する	●シャッター速度範囲が不十分
PQ レンズ、旧型レンズ使用で最高シャッター速度が点滅する	●最高フラッシュ同調速度以上の速度にセットされている
旧型レンズで絞りまたはシャッター速度が表示されない	●旧型レンズ使用で絞り優先 AE の場合、レンズが絞り込まれた時点でシャッター速度または範囲外の絞りが表示する
シャッターがすぐに切れない	●カスタム機能のセルフタイマーが機能している
旧型レンズ使用またはマニュアル露出モードで、ライトバランスが表示しない	●旧型レンズでマニュアル露出モードの場合、ライトバランスはレンズが絞り込まれた時点ではじめて表示される
旧型レンズで、シャッター速度・絞りを変えても露出表示が変わらない	●メモリースイッチを押したままで、変えている

処置

- マスタースイッチを "S" に入れる
- ニッカド電池を挿入するか、充電する
- グリップをいっばいに押し下げる
- レンズを装着する
- リリースボタンをもう一度押す
必要に応じてフィルムを装填する際にフィルムリーダーをきつく巻く
- フィルムステージを挿入する
- PQ レンズを装着する
- カスタム機能スイッチを "sf" にセットする
- 別のシャッター速度を選択する
- 平均測光またはスポット測光を選択する
- マニュアル露出を選択する
- マニュアル露出を選択する
- 絞り優先 AE かマニュアル測光を選択する
- フラッシュを使う
- 大きな絞りを選択するか、フラッシュを使う
- もっと遅いシャッター速度を選択する
- もっと大きな絞りを選択する
- 点滅が止まるまでシャッター速度を落とす
- メモまたは絞込みボタンを使ってレンズを絞り込む
- カスタム機能スイッチを "norm" にセットする
- メモまたは絞込みボタンを使ってレンズを絞り込む
- メモリースイッチをリリースし、ファインダーディスプレイを見直す

TROUBLESHOOTING

トラブルシューティング

問題	原因
フォーカススクリーンに画像が出ない	●ミラーがロックアップされている
無限遠でファインダーの映像がぼけている	●フォーカススクリーンのアラインメントが不適当か、スクリーンがセットされていない ●マグニファイヤーが使用者の目に合わない
6x6 マガジン使用時に写真がぼけている	●フィルムステージが装着されていない
シャッターが切れない	●AFがフォーカス優先("sing"ポジション)にセットされていて、コントラストの関係で合焦が不可能
露出表示には問題ないのに、シャッターが切れない	●電池の力不足で電子システムがカットされている
電池がすぐに空になる	●使用温度が低すぎる
フィルム巻上げ中に、ヒューズが反応して、カメラの電源が切れる	●フィルムベースが、例えば冷蔵庫に入れて置いたとか、非常に寒い場所にあつて、もろくなり過ぎている
連続撮影中にカメラの電源が切れる	●電池の力不足
デディケーテッド・フラッシュモードでフィルフラッシュが作動しない	●フィルフラッシュ・レシオを選択していない
不正確な露出	●ミラーをロックアップした後の光線状態変化 ●強い迷走光がファインダースクリーンに到達(特に蛍光灯から) ●ファインダーに警告が出ているのを無視した
プリフラッシュを使用したのに露出の誤りがでる	●強い迷走光
カメラがAFモードで合焦しない	●被写体のコントラストが低すぎる
AFモードで合焦が外れる	●強い迷走光
220フィルムが完全に巻き上げきれない	●120フィルム用マガジンに220フィルムを入れている
フィルムの最後の1,2枚が未露出で残る	●装填の際に充分巻き上げられていない
コマ数計が15か16で止まる。	●220フィルム用マガジンに120フィルムを入れて使用している

処置

- レリーズボタンを押し、必要なら露出表示を見直す
- スクリーンを正しく装着する（マット面を下に）。保持枠をしっかり押さえる
- 目に合ったマグニファイヤーに交換する（視度 +3.5 ~ -4.5 まであり）
- フィルムステージを装着する
- フォーカスモードダイヤル [26] を "man" または "cont" にセットするか、被写体と等距離の物体を代用して合焦する
- 電池を交換するか充電する
- 電池を保温しておき、充電する。または外部電池コネクターを使い交換可能電池を使う
- フィルム（カメラ）を保温する。ヒューズ（1.25 amp/250V スローブローに限る）を交換する
- 充電した電池は、体にくっつけて保温しておく
- フィルム装填時には、均等に巻き上げるようにする。ヒューズを交換する
- 可能ならば、フルに充電した電池を使う
- 補正スイッチ上でフィルム量を -1/3EV から -3EV までの間（補正）または +1/3EV から +3EV までの間でセットする
- 光線状態が変わる時はミラーをロックアップせず、シャッターを切る寸前まで AE をフルに作動させる
- ファインダーのマグニファイヤーホルダー [5] を上げ、光線が直接に当たらないようにする
- 難しい光線状態の時はファインダーフードを閉めるか、他のファインダーを使用する
- 1 枚撮影することに露出データを読み、警告に注意する（例：絞り、シャッター速度の点滅、ライトバランズ +/- 1EV 以上、88 8888 など）
- 強い迷走光を避ける。難しい光線状態の時はファインダーフードを閉める
必要ならその他のファインダーを使う
- 被写体とほぼ等距離にあり、もっとコントラストがあるものでピントを合わせる
- 強い迷走光を避ける 例えばファインダーフードを閉めるか、必要ならその他のファインダーを使う
- シャッターを約 20 回切ってフィルムを進める
- 矢印がフィルムのマークに合うまでフィルムを巻き上げる
- レリーズボタンを 2 度押し、フィルムをいっぱい巻き上げる（フィルムが平らにならないのでピンぼけになりやすい）

適合性

旧型カメラ部品との適合性：

SLX と 6002 バックを除き、全ての互換性アクセサリは 6008AF に使用できますが、一部は機能が限定されます。

互換型 6006 マガジンの使用：

ローライフレックス 6006 用互換型マガジンを使用する場合、これらのマガジンはフィルム感度設定ができないので ISO 感度を自動的に移すことができません。

この場合ローライフレックス 6008AF は自動的に ISO100 を設定します。使用するフィルムの感度がそれ以外だったら補正スイッチ 43 を使って補正してください。その場合露出補正アイコンは表示されません。ISO25 から ISO2500 までのフィルムは下表によって使用できます。

ISO感度	25	50	100	200	400	800	1600	2500
EV 補正	+2	+1	0	-1	-2	-3	-4	-4 ² / ₃

ご注意：

ローライフレックス 6002、または SLX 用バックは 6008AF のボディに取り付けないで下さい。

6008AF、6008 インテグラル用のマガジンを 6002、または SLX のボディに取り付けないで下さい。

機械的破損が起こります。

SLX 用フィルムインサート（内部のアイコンかインデックスで見分けがつきます）は取り外す時に引っかかりやすいので、使用してはいけません。

旧型交換レンズ (SLX、6002、6006 用) の使用
ローライフレックス SLX、6002、6006 用交換レンズ (PQ レンズ除外) を使用する時は以下の点に注意してください: これらのレンズは絞り開放シミュレーション用に設計されていないので、使用する絞りでの測光はメモリーボタン 27、絞込みボタン 32 を押したときに初めて表示されません。

メモリースイッチを押すと、AE 値もロックされます。それで、シャッター速度、絞り値を変えた時にはメモリースイッチか絞込みボタンを押し直して、もう一度読み取りをする必要があります。

いずれにしても、露出は、メモリースイッチ、絞込みボタンを押す、押さないに関係なく、リリースボタンを押した時に決まる絞りとシャッター速度の組み合わせで行われます。

ただし、メモリースイッチがロックされている時は例外です。

絞込み測光のため、EV5 ~ EV19 での絞り範囲では PQ レンズの場合より小さくなります。これらの場合、シャッター速度優先 AE、プログラ

ム AE、マルチスポット測光、フィルフラッシュは使用できません。またバルブとタイムの組み合わせ使用はできません。

絞りのシミュレーションがないので、絞りは表示されません。その他のファインダーディスプレイ [12] 表示は PQ レンズ使用の場合と類似しています。旧型レンズを使用した時に、ある操作モードが使えない場合にはファインダーディスプレイ [12] には "no Ruto" または "-----" が絞り値、シャッター速度の代わりに表示されます。

旧型のレンズは絞込み測光でしか使えないので、普通のフードでは迷走光補正範囲をしばしば超えてしまいます。そこでマグニファイヤー [6] を上げて測定値を読むか、できるだけ目をマグニファイヤーに近寄せて、フォーカススクリーンに当たる光を遮るようにしてください。

重要:

アクセサリの中、FM1、ME1、SRC/MRC 120 はローライフレックス 6008AF には使用できません。

SPECIFICATIONS

ローライフレックス 6008AF 仕様

カメラの形式	コンピュータ制御のレンズ交換式ロールフィルム用AF一眼レフシステムカメラ
主な機能	■マルチモードの露出制御 ■3種類の測光パターン ■TTLフラッシュコントロール ■コンピュータ接続による機能のカスタマイズ(要別売ソフトウェア) ■モータードライブ内蔵 ■アクショングリップ付き ■オートフォーカス機能
画面サイズ	6×6cmおよび6×4.5cm
使用フィルム	6×6cm-12枚撮り／6×4.5cm-16枚撮り120ロールフィルム 6×6cm-24枚撮り／6×4.5cm-32枚撮り220ロールフィルム
フィルム感度	フィルムマガジンに1/3単位でISO/25-6400まで設定可能
シャッター速度と絞り	レンズシャッター(1/500または1/1000秒～30秒まで1/3刻み、バルブ、タイム) 絞りはカメラによる電子制御、レンズ内蔵のリニアモーター2個によるダイレクトドライブ タイム露出は1秒～99分までマスターウエアにより1秒刻みで設定可
測光方式	■7個のシリコン・フォトセルによる中央部重点マルチパターン測光 ■中央部のフォトセルによるスポット測光 ■被写体の5カ所をスポット測光し、その平均値を計算して適正露出を設定するマルチスポット測光 ■測光および撮影中は自動的にファインダースクリーン側からの入射光を補正
クイックリリース	シャッターボタンを押してからシャッターが開くまでを短縮 PQレンズで3～4ms／PQSレンズで2ms
オートクイックリリース	■シャッターを切る度にクイックリリース機能をオート設定 ■コンピュータとの接続により間隔を1ms～9msまで設定可能
露光モード	■シャッタースピード優先AE ■絞り優先AE ■プログラムAE:シャッター速度と絞りを自動制御(高速優先) マスターウエア使用で、シャッター優先プログラムは30～1/500秒 ■1/3ステップでのマニュアルモード
測光範囲	ISO100 f2でEV-1～EV19まで ISO100 f2.8でEV-0～EV10まで 6006用レンズ使用ISO100 f2でEV5～EV19まで
AEロック	すべてのオートモードで作動、シャッタースピードと絞りをEVでロック
露光補正	-4.1/3から+2EVまで1/3ステップで設定可能 オートブラケットは1/3または2/3ステップまで3枚連続撮影
TTLフラッシュ自動調光	■シリコンフォトダイオードでフィルム面反射光を測定 ■充電とオートチェックはファインダー内で確認可能 ■使用可能フィルムは、ISO/25～400まで ■日中シンクロはすべてのモードで使用可能
ミラーアップ	すべての操作で作動可能、測光値を記憶可能

フラッシュ・シンクロ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1/1000秒から30秒までのすべてに同調 ■ オートフラッシュコントロール接点付きホット・シューはSCA-3562フラッシュアダプターを使用してSCA3000システムフラッシュユニットが使用可能
レンズマウント	シャッターと絞りの信号用10ピンの接点付ローラーバヨネットマウント エクステンションチューブ、ベローズ、レトロアダプターなど使用しても全自動
シャッターレリーズ	カメラフロントの電磁レリーズ(6008AFおよび6008インテグラルは2ヶ所、グリップ取り付け部にも電磁レリーズ)、およびケーブルレリーズ取り付け穴とリモートコントロール用ソケットを装備
被写界深度プレビュー	すべてのモードを被写界深度プレビューボタンで確認可能
レンズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ シュナイダー AFレンズが使用可能 ■ ツァイスとシュナイダー製のPQ/PQS、およびELレンズ使用可能 (マニュアルフォーカスのみ) ■ 解放測光、絞り込み、および被写界深度確認機構付 ■ 非PQレンズ場合は絞り込み測光のみ使用可能 ■ PQ/EL-Mレンズ：1/500-30秒B.T (1/3ステップ) ■ PQSレンズ：1/1000-30秒B.T (1/3ステップ) ■ レンズに内蔵の2個のリニアモーターで直接駆動
多重露光	MEポジションで使用可能
ミラー	エアクション付き多層膜コーティング・クイックリターンミラー
ファインダー	交換式折り畳みファインダーフード、45°プリズムファインダー、90°テレスコピックファインダーなど交換可能。ファインダースクリーンも交換式
ファインダーディスプレイ	LCDディスプレイ表示 フィルムコマ数、縦・横位置、絞り、シャッタースピード、マニュアル測光時の適正および誤差、マニュアルフォーカス合焦表示、スポット測光、AEロック、フラッシュ充電、バッテリーチェックなどを表示
フィルム送り	モータードライブ内蔵/秒間2.5コマ/1コマまで自動給送、撮影終了後自動巻取
パワーサプライ	ニッカドバッテリー(標準装備)=チャージャーは1時間でフル充電 外部電源ユニット(別売)=リチウム乾電池(CR123A×5本)使用可能
アクショングリップ	4ヶ所でのクリックストップ(ストラップ付き)
マガジン	6×6cm、6×4.5cmサイズで120、220フィルム使用。 フィルム感度設定ダイヤル付き。70mmとインスタントフィルムも使用可能。
外部コネクター	14ピンユニバーサルソケット/クイック三脚アダプター/三脚用1/4in.と3/8in.のネジ穴(ネジストローク7mm)
作動環境	-20℃～+60℃
サイズ	高さ143×幅139×奥行124mm(本体のみ) 高さ143×幅160×奥行176mm(標準セット)
重量	1,5kg(本体のみ)、2.62kg(標準セット)

Rollei

日本総代理店



KOMAMURA
CORPORATION

株式会社駒村商会

〒 103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-2-4 駒村ビル
TEL.03-3639-3351 FAX.03-3808-0115

www.komamura.co.jp